

工 事 設 計 図 書									
年 度	令和5年度	技術管理者	課長	係長	係長	精算者	設計者	受託工事費	
工 事 番 号	05-7601							設 計 年 月 日	令和5年 4月 3日
着 工 番 号			精 算 年 月 日	令和5年 4月 3日					
施 工 理 由									
施 工 箇 所	明石市大久保町松陰地内					施 工 方 法 及 び 工 事 期 限		<input checked="" type="radio"/> 請 負 単価契約 令和5年9月30日まで	
工 事 名 称	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事					支 払 い 方 法		前 払 金	あり (40%以内)
								中 間 前 払 金	あり (20%以内)
								部 分 払	あり (1回以内)
工 事 概 要	仮配水管布設工計 L=303.6m								
	仮配水管布設工 φ100 L=303.6m								
	既設管撤去工 1式								
	舗装復旧工 1式								
当初設計金額	円	消費税相当額	円	当初請負金額	円	消費税相当額	円		
変更設計金額	円	消費税相当額	円	変更請負金額	円	消費税相当額	円		
増 減	円	増 減	円	増 減	円	増 減	円		

契約数量表

頁0-0001/0007

本工事費	費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減
管路						
φ100管路						
φ100管布設工						
材料			式		1	
PE EFフランジ (RF形 7.5k) φ75			個		1	
PE EF片受ヘッド (90°) φ75			個		1	
PE EF受口付直管 φ100			本		60	
PE EF片受ジョイント φ100×75			個		1	
PE EF両受ヘッド (45°) φ100			個		2	
PE EF片受フランジ短管 φ100			個		1	
PE EFカット φ100			個		2	
PE挿し口付 ツトシル仕切弁 φ100			個		2	
ツトシル仕切弁付割T字管 φ100×100	密着コア(SUS製) 含む		基		1	
フランジ 接合補強具(LSP形) φ100	7.5K LSPパッキン		組		1	
仕切弁室(明石V型)(H=340)	鉄蓋含む		組		1	
仕切弁室(明石V型)(H=1040)	鉄蓋含む		組		2	
空気弁付消火栓(浅埋形) φ75×65	JWWA B 103, 地下式, 単口式, 0.75MPa		基		2	

契約数量表

頁0-0002/0007

費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
ケルップ式単口消火栓(浅埋形) φ75×65	JWWA B 103, 地下式, 単口式, 0.75MPa	基		1	
フランジ短管 φ 75×300	0.75MPa	個		2	
PE フランジ付チースRF形 (7.5k) φ100×75		個		3	
フランジ接合補強具(LSP形) φ 75	7.5K LSPパッキン	組		5	
空気弁ボックス(円形3号)(H=340)	鉄蓋及び無収縮モルタル含む	組		1	
消火栓ボックス(円形3号)(H=340)	鉄蓋及び無収縮モルタル含む	組		1	
空気弁ボックス(円形3号)(H=1040)	鉄蓋及び無収縮モルタル含む	組		1	
手間		式		1	
ポリエチレン管(融着接合)据付	呼び径 75mm	m		0.7	
ポリエチレン管(融着接合)継手工	呼び径 75mm, 1口継手	箇所		2	
ポリエチレン管(融着接合)据付	呼び径 100mm	m		301.2	
ポリエチレン管(新設管)切断工	呼び径100mm	口		6	
ポリエチレン管(融着接合)継手工	呼び径 100mm, 2口継手	箇所		7	
ポリエチレン管(融着接合)継手工	呼び径 100mm, 1口継手	箇所		61	
フランジ継手 接合(呼び径 100mm)	JWWA 7.5K	口		1	
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置	縦型仕切弁 呼び径 100mm以下	基		2	
不断水連絡工(φ100mm×φ100mm)		箇所		1	
密着コア取付工 φ100		個		1	

契約数量表

頁0-0003/0007

費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
円形1号ボックス設置工(H=340)	鉄蓋設置含む	箇所		1	
円形1号ボックス設置工(H=1040)	鉄蓋設置含む	箇所		2	
空気弁 設置 呼び径 75mm	機械施工	基		2	
消火栓(地下式 単口)設置工	機械施工 フランジ 接合1口含む	箇所		1	
フランジ継手 接合(呼び径 75(80)mm)	J W W A 7.5K	口		4	
円形3号ボックス設置工(H=340)	鉄蓋設置含む	箇所		2	
円形3号ボックス設置工(H=1040)	鉄蓋設置含む	箇所		1	
φ100管布設土工					
土工		式		1	
舗装版切断(アスファルト舗装版)	As舗装版厚→15cm以下	m		580	
舗装版取壊し積込工	舗装厚⇒0cm越え 10cm以下	m2		175	
掘削積込工		m3		150	
掘削積込工(補助的作業なし)		m3		1	
掘削(人力)	土砂 現場制約あり	m3		0.4	
残塊処分工(アスファルト)		m3		9	
残塊処分工(土砂)		m3		150	
アスファルト舗装工(人力)	密粒度アスコン[再](13) t=50mm	m2		175	
路盤工(粒調碎石)	上層路盤 施工幅:1.8m 未満 仕上り厚10cm	m2		175	

契約数量表

頁0-0004/0007

費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減
埋戻工(埋戻し材→再生切込砕石)		m ³		53	
埋戻工(埋戻し材→スクリーンガス)		m ³		73	
付帯工					
既設管撤去工					
既設管撤去材料		式		1	
カップ式単口消火栓(浅埋形) φ75×65	JWWA B 103, 地下式, 単口式, 0.75MPa	基		2	
フランジ短管 φ75×200	0.75MPa	個		2	
補修弁(キャップ式) φ75×100	JWWA B 126, 0.75MPa	基		2	
DGX フランジ付きT字管 φ100×75	ロックリング含	個		2	
フランジ接合補強具(LSP形) φ75	7.5K LSPパッキン	組		6	
消火栓室(明石IV型・丸型)(H=740)	鉄蓋及び無収縮モルタル含む	組		2	
耐震型不断水簡易バルブ(鋳鉄管) φ100		基		2	
仕切弁室(明石V型)(H=740)	鉄蓋含む	組		2	
DGX 帽 φ100		個		2	
GX形G-Linkセット φ100	切管異形管受用	組		4	
A・K形既設管用耐震金具(3DkN以上) φ100		組		2	
表示帯		m		1	
ポリエチレンスリーブ φ100	固定材料含む	m		1	

契約数量表

頁0-0005/0007

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減
管明示テープ(幅50mm 1巻 20m)	年号入り	巻		1	
HIVP管 φ 40	JIS K 6742	m		4	
HI エルボ φ 40	JIS K 6743	個		6	
止水栓 φ 40		個		2	
止水栓BOX 明石型 H=600		個		2	
給水管切替 φ 20 (材料)	サトル分水栓含まない	箇所		2	
サトル分水栓(鋳鉄用) φ 100×20	密着コア込	個		2	
PP管 φ 20	二層管,1種(軟質)	m		20.5	
手間		式		1	
鋳鉄管吊込み据付(機械力)	呼び径 100mm	m		1	
メカニカル継手 接合(呼び径 100mm)	継手:K形 特殊押輪補正あり	口		2	
消火栓(地下式 単口)設置工	機械施工 フランジ 接合1口含む	箇所		2	
フランジ継手 接合(呼び径 75(80)mm)	J WWA 7.5K	口		4	
円形3号ボックス設置工(H=740)	鉄蓋設置含む	箇所		2	
耐震型不断水バルブ 設置工(鋳鉄管用) φ 100		箇所		2	
円形1号ボックス設置工(H=740)	鉄蓋設置含む	箇所		2	
G X継手接合(呼び径 100mm)	G-Linkの接合	口		2	
G X継手接合(呼び径 100mm)	異形管	口		2	

契約数量表

頁0-0006/0007

費目・工種明細など	規格1・規格2	単 位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減
管明示シート工		m		1	
ポリエチレンスリーブ被覆(呼び径 100mm)		m		1	
管明示テープ工	φ 100	m		1	
硬質塩化ビニル管 据付	呼び径 40mm	m		4	
硬質塩化ビニル管 TS継手工(呼び径 40mm)		口		18	
止水栓 取付 (呼び径40mm)	接合及び止水栓管 VP用	箇所		2	
給水管切替工(φ75~150×φ20)		箇所		2	
ポリエチレン管 据付	呼び径 20mm	m		20.5	
铸铁管吊込み撤去 (機械力)	呼び径 100mm	m		3	
铸铁管(既設管)撤去切断工(エンジンカッター)	ダクタイル铸铁管 呼び径100mm	口		4	
現場発生品・支給品運搬		回		1	
撤去土工		式		1	
掘削積込工		m3		13	
掘削積込工(補助的作業なし)		m3		4	
掘削 (人力)	土砂 現場制約あり	m3		2	
残塊処分工(土砂)		m3		21	
埋戻工 (埋戻し材->再生切込碎石)		m3		14	
埋戻工 (埋戻し材->スクリーンガス)		m3		6	

契約数量表

頁0-0007/0007

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減
付帯工					
舗装復旧工		式		1	
アスファルト1層式(車道)		式		1	
舗装版切断(アスファルト舗装版)	As舗装版厚->15cm以下	m		320	
舗装版取壊し積込工	舗装厚⇒0cm越え 10cm以下	m2		891	
残塊処分工(アスファルト)		m3		45	
不陸整正工(粒調碎石)	施工幅：1.8m 以上、補足材厚3cm	m2		891	
表層(車道・路肩部)	t = 5 0 mm	m2		891	
交通誘導員設置		式		1	
交通誘導員		式		1	
交通誘導員設置		式		1	
交通誘導警備員 B		人日		80	
試掘調査		式		1	
試掘調査工					
通水試験費		式		1	
通水試験費	給水車不要の場合	回		1	
スクラップ控除		式		1	
鉄屑	ヘビ- H1	t		0.07	

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章																																													
1	<p>一般共通事項</p> <p>※ 1 現場代理人の兼務</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 本合併工事については、本工事以外の工事の現場代理人の兼務を認める。</p> <p>2 合併工事</p> <p style="padding-left: 20px;">1 本工事は、下水道整備課発注工事との合併工事である。 施工前に工程を充分検討し、工事が円滑に進むよう調整すること。</p> <p>※ 3 近接工事</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 本工事は、石ヶ谷墓園跨道橋架け替え工事 の関連工事である。関連他業者との連絡を密にし、互いの工事の影響が少ないように 工程管理すること。</p> <p>※ 4 占用関係</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1 国道()</td> <td style="width: 5%; border: none;"> </td> <td style="width: 45%; border: none;">2 県道()</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3 市道()</td> <td style="border: none;"> </td> <td style="border: none;">4 法定外道路()</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5 港湾()</td> <td style="border: none;"> </td> <td style="border: none;">6 河川()</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">⑦ その他(明石市緑化公園課)</td> <td style="border: none;"> </td> <td style="border: none;">()</td> </tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">上記のチェックが入っている占用について、監督員と協議して必要な書類を 提出すること。</p> <p>※ 5 協議関係(上記占用以外)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1 鉄道等()</td> <td style="width: 50%; border: none;">()</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2 バス道等()</td> <td style="border: none;">()</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3 学校関係()</td> <td style="border: none;">()</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">※ 4 その他(石ヶ谷墓園、NEXCO西日本)</td> <td style="border: none;">()</td> </tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">上記1～4のいずれかにチェックが入っている場合は、各関係者に施工内容や時期を 報告し、場合によっては施工協議をする必要も出てくるので、監督員と充分協議すること。</p> <p>※ 6 工事の範囲</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 当該工事予定範囲について、地元要望等及び現地の状況により、施工範囲の 増減が生じる可能性がある。その場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。</p> <p>※ 7 交通誘導警備員</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 交通誘導警備員の人数は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 15%;">合計</th> <th style="width: 15%;">布設工</th> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">80名</td> <td style="text-align: center;">80名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">80名</td> <td style="text-align: center;">80名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> <td style="text-align: center;">0名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="padding-left: 20px;">※ 1日1現場当り4名(標準)</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1日1現場当りT字交差点部 5名 1日1現場当り十字交差点部6名 その他1日1現場当り追加 1名(バス停)</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 道路管理者及び警察署との協議及び地元要望等に伴い、上記の配置員数に増減 が生じた場合は、協議のうえ設計変更の対象とする。また、その配置を監督員と協議 すること。 なお、交通誘導員A、Bの定義は次のとおりとする。 交通誘導警備員A;警備業者の警備員(警備業法第2条第4項に規定する 警備員を言う。)で、交通誘導警備業務(警備員等の検定等に関する規則第1条</p>	1 国道()		2 県道()	3 市道()		4 法定外道路()	5 港湾()		6 河川()	⑦ その他(明石市緑化公園課)		()	1 鉄道等()	()	2 バス道等()	()	3 学校関係()	()	※ 4 その他(石ヶ谷墓園、NEXCO西日本)	()	種類	合計	布設工				A	0名	0名	0名	0名	0名	B	80名	80名	0名	0名	0名	合計	80名	80名	0名	0名	0名
1 国道()		2 県道()																																											
3 市道()		4 法定外道路()																																											
5 港湾()		6 河川()																																											
⑦ その他(明石市緑化公園課)		()																																											
1 鉄道等()	()																																												
2 バス道等()	()																																												
3 学校関係()	()																																												
※ 4 その他(石ヶ谷墓園、NEXCO西日本)	()																																												
種類	合計	布設工																																											
A	0名	0名	0名	0名	0名																																								
B	80名	80名	0名	0名	0名																																								
合計	80名	80名	0名	0名	0名																																								

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	<p>第4号に規定する交通誘導警備業務をいう。)に従事する交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員 交通誘導警備員B;警備業者の警備員で交通誘導警備員A以外の交通の誘導に従事するもの</p> <p>※ 8 低入札調査基準価格または最低制限価格の算定方法について ※ 1 低入札調査基準価格または最低制限価格の算定については、スクラップ控除を直接工事費に含めて算定している。</p> <p>※ 9 断水作業及び管内清掃作業等に伴う弁栓類操作および放水作業について ※ 1 受注者は、弁栓類操作および放水作業にかかる作業員を用意すること。 ※ 2 上記作業については、監督員または水道局職員の指導のもと、受注者が行うものとする。 ※ 3 上記作業に伴い濁水等が発生した場合は直ちに監督員に連絡の上、監督員の作業指示に従い、監督員と協力の上、濁水等の処理を行うこと。 ※ 4 受注者は、上記作業に伴う放水用器具を1セット用意すること。 (放水用器具1セット:消火栓スタンド,バルブキー2本,放水用ホース)</p> <p>※ 10 工事日報について ※ 1 工事日報は該当箇所作業後、該当箇所の日報を<u>2週間以内</u>にセンター監督員に提出すること。 ※ 2 工事日報は以下の工種について提出するものとする。 ① 試掘工 ② 仮配水管, 仮給水管布設撤去工 ③ 水道本管布設撤去工(残置処理配管共) ④ 給水管布設工 ⑤ 水圧試験 ⑥ 白紙様式3枚(検査合格報告書分) なお、提出工種に疑義が生じた場合は、監督員と協議の上、提出内容を決定すること。 ※ 3 その他内容については、水道工事標準仕様書(6.提出書類)に基づくものとする。</p> <p>※ 11 <u>工事の施工に伴い第三者に与えた損害を賠償する保険の付保について</u> ※ 1 <u>本工事において、受注者は発注者と受注者を被保険者とした「工事の施工に伴い第三者に与えた損害を賠償する保険」に付さなければならない、発注者においては(保険金額→対物500万円以上・保険期間→工期内)とすること。なお、上記保険については掛金相当額が諸経費の中に積算されているので、入札にあたってはこれを含めて積算すること。</u> <u>また、明石市工事請負契約約款第58条(火災保険等)に基づき、保険契約を締結したのち、その証券等を発注者に提示すること。</u></p> <p>※ 12 建設リサイクル法等に基づく手続きについて ※ 1 受注者は、再生資源利用計画書(実施書)及び再生資源利用促進計画書(実施書)を提出するものとする。 また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。掲示様式は県HPに掲載の様式を使用すること。</p> <p>※ 13 その他事項 ※ 1 設計図書とは、明石市水道局工事請負契約約款第1条に規定する設計図書のことをいう。 ※ 2 工期については、配水管布設工事については契約締結日の翌日から令和5年9月30日までとしている。 ※ 3 当該工事設計図書は令和4年度水道施設整備費に係る歩掛表に基づいて積算している。 ※ 4 間接工事費等の算定における管材費には、従来の材料に加えて仮配管も含めている。</p>

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	

章	
2	<p>管きよ工</p> <p>※ 1 使用材料</p> <p>※ 1 使用材料確認願(様式29-1)には、明石市水道工事標準仕様書4.1に記載している指定品及びその他土木工事等材料に記載すること。 添付書類は、県土整備部指定様式のほか、使用するメーカーの日本水道協会検査工場登録通知書、構造図(承認図)(不断水バルブ、割T字管(付属バルブ)、特殊な仕切弁、消火栓、空気弁、補修弁、排泥弁、止水栓、サドル分水栓、その他監督員が必要と認める材料)とする。</p> <p>※ 2 土木工事承諾願(様式30-1)には、指定品以外の水道材料及び受注者が監督員に承諾を求める材料に記載すること。 添付書類は、県土整備部指定様式のほか、水道材料については、使用するメーカーの日本水道協会検査工場登録通知書と構造図(承認図)またはそれらに替わる書類、土木工事等材料については、その性能等を証明する書類とする。</p> <p>※ 3 水道使用材料納品後、立会願を提出し、監督員の材料確認状況及び材料のメーカーマークが分かる写真を工事写真帳に添付すること。</p> <p>※ 4 在庫品を使用する場合、工事打合せ簿にて使用したい在庫品の一覧表を添付すること。 また、立会願いを提出し、監督員は在庫品を確認し、使用可能かを工事打合せ簿で回答すること。確認状況写真を工事写真帳に添付すること。</p> <p>※ 5 受注者はPE管(水道配水用ポリエチレン管)布設工事に先立ち、資格証等を有する技能者が施工すること。また、その資格証等を施工体制台帳に含めて監督員に提出すること。</p> <p>2 一体化長さ</p> <p>1 設計水圧0.75Mpa、摩擦係数0.3で設計している。</p> <p>2 上記の条件と管の各口径及び各土被りを考慮し一体化長さを確認し、ライナヤ特殊押輪の有無を適時確認して施工すること。</p> <p>※ 3 管の据付</p> <p>※ 1 管路の高さを調整する場合は、スクリーニングス等を詰めた土嚢を原則使用すること。</p> <p>※ 2 木材を使用する場合には、防腐処理を施した材料を使用すること。</p> <p>※ 4 消火栓・空気弁</p> <p>※ 1 丸型消火栓ボックスを設置する箇所については、補修弁のバルブの位置を配水管法線から、90° の位置に設置すること。</p> <p>※ 2 消火栓及び空気弁の口の高さは、GL-20cm±5に収まるようにフランジ短管で調節すること。</p> <p>※ 3 フランジ部で使用するボルトは75mm以上のSUS製とすること。 また、ナットについては、SUS製の緩み防止仕様を使用すること。</p> <p>※ 5 水圧試験</p> <p>※ 1 標準仕様書5.10(1)について以下の条件を全て満たす場合、試験水圧0.75MPa、試験時間10分間、低下率1.0%以内を許容限度とする。 ・材質は鋳鉄管 ・口径は300mm以下 ・試験延長合計は100m未満</p> <p>※ 6 現場発生品の処分</p> <p>※ 1 既設鋳鉄管、鉄蓋関係の処分については、有価物として売却すること。その場合、金属くず</p>

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章											
	<p>商の許可証の写し、物品の受領を証明する書類、計量証明書などを監督員に提出すること また、計量伝票などの集計を設計変更の対象とする。なお、処分地はアライタルで運搬距離は2.6kmを計上している。ただし、上記書類等が整えば、別の処分地でも可能とする。 その場合は、設計変更の対象としない。</p> <p>2 既設石綿管の撤去が発生した場合、「水道用石綿セメント管の撤去作業等における石綿対策の手引き」(平成17年8月、厚生労働省健康局水道課)を参考として作業を行うこと。 その文章中のプラスチック袋等は、ポリエチレンスリーブ(2重包み)に置き換えて作業すること。処分地は特記仕様書(追記)のとおりとする。</p> <p>※ 3 既設塩ビ管、ボックス等、その他現場発生産品については、その材質により適切に処分すること。処分費については、処分地等は大阪湾広域臨海環境整備センター(播磨事業所)、運搬距離 km、処分費目は廃プラスチック類でを計上している。 ただし、計量伝票などの集計を設計変更の対象とする。</p> <p>※ 7 スクラップの種類</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 撤去鋳鉄管関係については、故銑Bで計上している。</p> <p>※ 8 その他事項</p> <p style="padding-left: 20px;">1 本工事における仮配水管の供用日数について、日までとして計上している。</p> <p>※ 2 管に傷がないかを点検し、有害な傷がある場合は、その箇所を切断除去する 管端から測って既定の差込長さの位置に配線を記し、削り残しや切削むらの確認を容易にするため、切削する面にマーキングする。</p> <p>※ 3 スクレーパを用いて管端から標線までの管表面を切削(スクレープ)する。 スピゴット継手類についても管と同様に取扱う。</p> <p>※ 4 切削面とEFソケット内面の受口全体をエタノール又はアセトン等を浸み込ませたペーパータオル等で清掃する。清掃は、きれいな素手で行う。 軍手等手袋の使用は厳禁である。</p> <p>※ 5 切削・清掃した管にEFソケットを挿入し、端面に沿って円周方向に標線を記入する。</p> <p>※ 6 EFソケットに双方の管を標線位置まで挿入し、固定クランプを用いて管とEFソケットを固定する。</p> <p>※ 7 EFソケットに一定の電力を供給するには、コントローラを使用する。コントローラへの供給電源(発電機等)は、必要な電圧と電源容量が確保されていることを確認し、電源を接続、コントローラの電源スイッチを入れる。共用タイプ以外のコントローラはEF継手とコントローラが適合していることを確認する。</p> <p>※ 8 EFソケットの端子にコントローラの出力ケーブルのコネクタを接続し、コントローラに付属のバーコードリーダーで融着データを読み込む。</p> <p>※ 9 コントローラのスタートスイッチを入れ通電を開始する。通電は自動的に終了する。</p> <p>※ 10 EFソケットのインジケータが左右とも隆起していることを確認する。コントローラの表示が正常終了を示していることを確認する。</p> <p>※ 11 融着終了後、下記表に示す規定の時間、静置・冷却する。冷却中は固定クランプで固定したままにし、接合部に外力を加えない。</p>										
	表 冷却時間										
	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">呼び径(mm)</th> <th style="width: 12.5%;">50</th> <th style="width: 12.5%;">75</th> <th style="width: 12.5%;">100</th> <th style="width: 12.5%;">150</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冷却時間(分)</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">10</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径(mm)	50	75	100	150	冷却時間(分)	5	10		
呼び径(mm)	50	75	100	150							
冷却時間(分)	5	10									

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	<ul style="list-style-type: none">※ 12 冷却終了後、固定クランプを取り外して接合作業を終了する。※ 13 融着作業中のEF接合部では、水が付着することは厳禁である。水場では十分なポンプアップ、雨天時にはテントによる雨よけなどの対策が必要である。※ 14 なお、詳細については「水道配水用ポリエチレン管及び管接手施工マニュアル」(配水用ポリエチレンパイプシステム協会)を参照する。※ 15 工事着手前に石ヶ谷墓園と協議を行うこと。また、彼岸及び盆の時期は工事休止とする。※ 16 放水用配管を見込んでいるが、施工箇所等については監督員と協議を行うこと。

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
---	--

章																																																																																																																																				
3	<p>土工事</p> <p>1 重機</p> <p>1 特殊車両(一般的制限値である幅2.5m、長さ12.0m、高さ3.8m、総重量20.0t等のいずれかを越える車両)を使用する工事なので、施工計画書に明記するとともに、施工時までに必要な書類をそろえ、監督員に提示できるようにしておくこと。</p> <p>※ 2 アスファルト切断</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 アスファルト切断は、乾式または吸引式を使用すること。</p> <p>3 配水管布設時の掘削幅</p> <p>1 矢板無の場合、単位はmm</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><th>口径</th><th>φ 75</th><th>φ 100</th><th>φ 150</th><th>φ 200</th><th>φ 250</th><th>φ 300</th><th>φ 350</th><th>φ 400</th><th>φ 450</th></tr> <tr><td>GX形</td><td>600</td><td>600</td><td>600</td><td>600</td><td>650</td><td>700</td><td>900</td><td>950</td><td>1000</td></tr> <tr><td>NS形</td><td>600</td><td>650</td><td>700</td><td>750</td><td>800</td><td>850</td><td>900</td><td>950</td><td>1000</td></tr> <tr><td>K形</td><td>600</td><td>650</td><td>700</td><td>750</td><td>800</td><td>850</td><td>900</td><td>950</td><td>1000</td></tr> </table> <p>2 矢板有の場合、単位はmm</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><th>口径</th><th>φ 75</th><th>φ 100</th><th>φ 150</th><th>φ 200</th><th>φ 250</th><th>φ 300</th><th>φ 350</th><th>φ 400</th><th>φ 450</th></tr> <tr><td>GX形</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>950</td><td>1000</td><td>1050</td></tr> <tr><td>NS形</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>900</td><td>950</td><td>1000</td><td>1050</td></tr> <tr><td>K形</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>850</td><td>900</td><td>950</td><td>1000</td><td>1050</td></tr> </table> <p>※ 4 配水管布設時の掘削深</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 配水管布設時の掘削深は、土被り+布設管外径(D2)+100を基本とする。</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 2 既設管を撤去し、その断面で新設管を布設する場合、既設管の管底まで掘削し、上記のように掘削深から100mm程度上げた状態で管を布設することを基本とする。ただし、近接する地下埋設物の状態や既設管の配管状況により、曲管等の異形管が極力増えないように土被りを検討すること。</p> <p>3 会所掘箇所は、G-Link・P-Link・特殊押輪等の押しボルト設置箇所とする。</p> <p>4 会所掘箇所の断面は、布設管口径がφ 350mm以下の場合、延長500mm、深さ200mm、φ 400mm以上の場合、延長800mm、深さ500mmとし、幅はそれぞれの掘削幅とする。</p> <p>5 仮配水管・仮給水管の掘削幅・掘削深</p> <p>1 矢板無の場合、単位はmm</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><th>口径</th><th>φ 100以下</th><th>φ 150</th><th>φ 200</th><th>φ 250</th><th>φ 300</th><th>φ 400</th></tr> <tr><td>幅</td><td>400</td><td>450</td><td>500</td><td>550</td><td>600</td><td>700</td></tr> <tr><td>深さ</td><td>400</td><td>450</td><td>500</td><td>550</td><td>600</td><td>800</td></tr> </table> <p>2 矢板有の場合の掘削幅、単位はmm</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr><th>口径</th><th>φ 100以下</th><th>φ 150</th><th>φ 200</th><th>φ 250</th><th>φ 300</th><th>φ 400</th></tr> <tr><td>幅</td><td>700</td><td>750</td><td>800</td><td>850</td><td>900</td><td>1000</td></tr> </table> <p>3 仮給水管設置撤去時の掘削幅は400mm、掘削深は300mmとすること。</p> <p>4 直轄国道に布設撤去する場合は深さ600mm以上とすること。</p> <p>※ 6 既設管撤去の掘削幅</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 矢板無の場合、単位はmm</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th>口径</th><th>φ 75~150</th><th>φ 200</th><th>φ 250</th><th>φ 300</th><th>φ 350</th><th>φ 400</th><th>φ 450</th></tr> <tr><td>幅</td><td>550</td><td>600</td><td>650</td><td>700</td><td>900</td><td>950</td><td>1000</td></tr> </table>	口径	φ 75	φ 100	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450	GX形	600	600	600	600	650	700	900	950	1000	NS形	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	K形	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	口径	φ 75	φ 100	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450	GX形	850	850	850	850	850	850	950	1000	1050	NS形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050	K形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050	口径	φ 100以下	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 400	幅	400	450	500	550	600	700	深さ	400	450	500	550	600	800	口径	φ 100以下	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 400	幅	700	750	800	850	900	1000	口径	φ 75~150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450	幅	550	600	650	700	900	950	1000
口径	φ 75	φ 100	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450																																																																																																																											
GX形	600	600	600	600	650	700	900	950	1000																																																																																																																											
NS形	600	650	700	750	800	850	900	950	1000																																																																																																																											
K形	600	650	700	750	800	850	900	950	1000																																																																																																																											
口径	φ 75	φ 100	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450																																																																																																																											
GX形	850	850	850	850	850	850	950	1000	1050																																																																																																																											
NS形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050																																																																																																																											
K形	850	850	850	850	850	900	950	1000	1050																																																																																																																											
口径	φ 100以下	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 400																																																																																																																														
幅	400	450	500	550	600	700																																																																																																																														
深さ	400	450	500	550	600	800																																																																																																																														
口径	φ 100以下	φ 150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 400																																																																																																																														
幅	700	750	800	850	900	1000																																																																																																																														
口径	φ 75~150	φ 200	φ 250	φ 300	φ 350	φ 400	φ 450																																																																																																																													
幅	550	600	650	700	900	950	1000																																																																																																																													

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章																	
	<p style="text-align: center;">※ 2 矢板有の場合、単位はmm</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">口径</th> <th style="width: 10%;">φ75~150</th> <th style="width: 10%;">φ200</th> <th style="width: 10%;">φ250</th> <th style="width: 10%;">φ300</th> <th style="width: 10%;">φ350</th> <th style="width: 10%;">φ400</th> <th style="width: 10%;">φ450</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幅</td> <td>850</td> <td>850</td> <td>850</td> <td>850</td> <td>950</td> <td>1000</td> <td>1050</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 7 給水管の掘削幅、掘削深、延長</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 1 分水穿孔部について、新設管布設後の場合は本管掘削幅、延長は600mm、深さは新設管布設時の土被りとする。既設管から分岐する場合は、本管口径のK形を布設する場合の掘削幅、延長は600mm、深さは既設管土被り+既設管呼び径+100mmとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 2 給水管部は、幅500mm、延長は給水管延長(本管～止水栓距離)－分水穿孔部掘削幅/2、深さは本管土被り-100mmとする。</p> <p>※ 8 掘削・埋戻し</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 1 埋戻し一層厚さ20cm未満とする。</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 2 水圧がかかっている水道管周りを掘削するときは、必ず人力掘削すること。</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 3 管路布設後、管下を埋め戻す場合には、スクリーニングス等を使用し、きちんと胴締めすること。管路布設前に余掘り分を埋め戻す場合は、再生砕石等良質土を使用し、きちんと転圧すること。</p> <p>※ 9 残土・殻処分地</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 1 処分地は特記仕様書(追記)参照。</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 2 特記仕様書(追記)は積算条件を明示しているものであり受入施設を指定するものではなく、受注者は、県登録施設から搬出先施設を選定し、土木工事共通仕様書(兵庫県県土整備部監修)に基づき施工計画書に含め、監督員に提出しなければならない。なお、受注者の選定した施設が積算条件と異なる場合においても設計変更は行わない。</p> <p style="margin-left: 40px;">ただし、特記仕様書(追記)の施設が工事発注後に県登録施設からの登録抹消等により受け入れ困難となった場合は、設計変更を行う。</p> <p>※ 10 各種試験</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 1 「土木工事施工管理基準」(兵庫県県土整備部監修)に定める以下の試験等について、基準を次のように定める。</p> <p style="margin-left: 40px;">※ 上層路盤の現場密度の測定・・・埋戻土及び管路掘削箇所について省略する。</p> <p>11 仮設材の運搬</p> <p style="margin-left: 20px;">1 仮設材の運搬については、積算上、運搬距離10kmを見込んでいる。</p> <p style="margin-left: 40px;">なお、受注者が実施する条件と異なる場合においても設計変更を行わない。</p> <p>※ 12 その他事項</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 1 工事範囲内にある各種鉄蓋の表面を汚さないよう処置をとること。</p>	口径	φ75~150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	幅	850	850	850	850	950	1000	1050
口径	φ75~150	φ200	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450										
幅	850	850	850	850	950	1000	1050										

章	
4	<p>舗装工</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 1 舗装前準備</p> <p style="margin-left: 40px;">※ 1 既設構造物(側溝、街渠等)等に損傷を与えていないか、動いていないか等を確認し、異常がある場合は、適正な方法を検討し、監督員と協議すること。</p> <p style="margin-left: 40px;">※ 2 下水道の鉄蓋で古い鉄蓋(コンクリート蓋、コンクリート巻鉄蓋等)がある場合は、舗装復旧</p>

特記仕様書
(令和5年度 石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事)

項目以下数字の左側に※がある項目を本工事の該当項目とする。

章	
	<p>前に下水道室が取り替えることがあるので、位置が分かるものと現況写真を提出すること。</p> <p>※ 3 他の地下埋設物の鉄蓋で高さ調整が必要なものは、位置が分かるものと現況写真と高さ調整の程度(+〇cm等)が分かるものを提出すること。</p> <p>※ 4 舗装復旧内に古い消火栓蓋、空気弁蓋、仕切弁蓋がある場合は、取替するかどうか監督員と協議すること。</p> <p>5 切削オーバーレイで施工を予定している。</p> <p>土木工事共通仕様書(兵庫県県土整備部監修)及び土木工事施工管理基準(兵庫県県土整備部監修)に記載のとおり、測量し計画書を作成し、監督員の承諾を得たのち、施工すること。</p> <p>※ 2 不陸整正工</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 補充材の有無を確認し、路床面の不陸を整正すること。</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 2 既設構造物、各種鉄蓋と接触する部分は、入念に清掃すること。</p> <p>※ 3 乳剤散布</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 ムラにならないよう、均一に散布すること。</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 2 既設構造物、各種鉄蓋と接触する部分等にも散布すること。</p> <p>※ 4 アスファルト舗装工</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 当日舗装版撤去した範囲について、表層まで復旧出来ない場合は監督員と協議すること。その場合は、周辺住民によく周知し、既設構造物、各種鉄蓋の箇所が歩行者、二輪車、自動車等の交通車両に危険が無いよう、すり合わせし、段差有の看板を立てるなど注意喚起すること。</p> <p>5 区画線工</p> <p style="padding-left: 20px;">1 インターロッキング舗装等のブロック舗装範囲に消火栓を設置した際の消火栓周り(黄色)の区画線は設置しないこと。</p> <p style="padding-left: 20px;">2 施工直前に施工箇所を清掃し、プライマーを塗布すること。</p> <p style="padding-left: 20px;">3 ガラスビーズを配合すること。</p> <p>※ 6 各種試験</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 1 「土木工事施工管理基準」(兵庫県県土整備部監修)に定める必要な試験等について、試験位置、試験方法等を事前に監督員に報告すること。</p> <p style="padding-left: 20px;">※ 2 「土木工事施工管理基準」(兵庫県県土整備部監修)に定める以下の試験等について、基準を次のように定める。</p> <p style="padding-left: 40px;">※ 1 アスファルトの現場密度の測定・・・同一配合のアスファルト施工面積500m²未満について省略する。</p> <p style="padding-left: 40px;">※ 2 アスファルトコア採取・・・同一配合のアスファルト施工面積1箇所20m²以上500m²未満の箇所についてコア採取は1箇所とする。また、20m²未満については省略する。</p> <p style="padding-left: 40px;">※ 3 表層の平坦性・・・省略する</p> <p style="padding-left: 40px;">※ 4 既設管充填処理に使用するモルタル等の強度試験・・・省略する。</p> <p>7 その他事項</p>

特記仕様書(追記)

1 建設発生土の搬出先

品目	建設発生土
施設の名称	田口建材(株)
所在地	明石市大久保町字戌亥谷2751他4筆
運搬距離	1.8km
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

2 特定建設資材の分別解体等・再資源化等

1)分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	⑥その他	その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

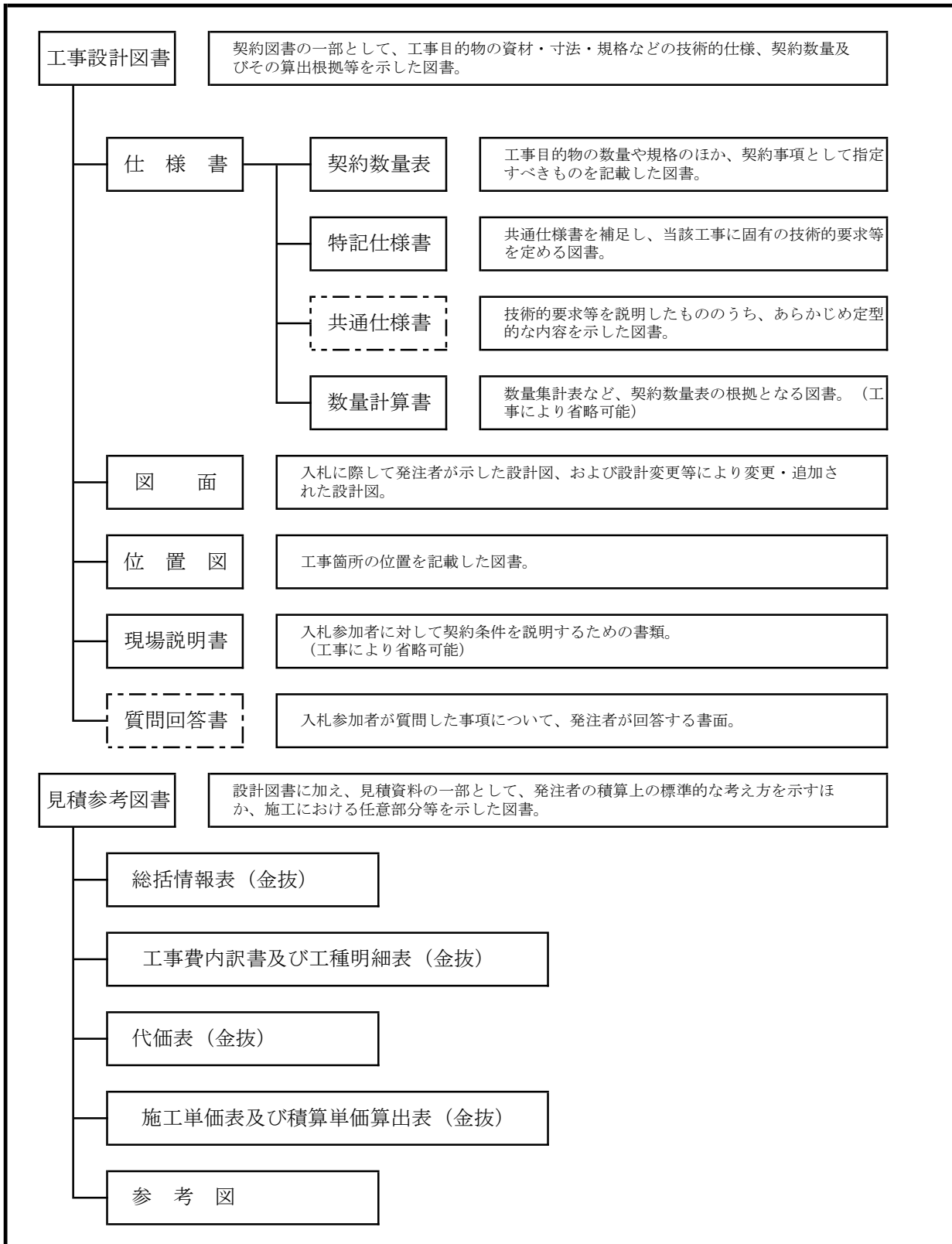
2)再資源化等をする施設の名称及び所在地

品目	アスファルト塊
施設の名称	(株)NIPPO神戸合材センター
所在地	神戸市西区櫛谷町寺谷字従弟谷723-11
運搬距離	12km
受入等諸条件	県土整備部の「建設副産物の処理ならびに受入価格」に掲載される当該施設の受入条件を遵守すること。
その他	監督員の指示による

3 仕様書

設計図書の他に交付する「見積参考図書」とは入札（見積）参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、明石市工事請負契約約款 第1条でいう設計図書ではない。従って、「見積参考図書」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は施工条件及び地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法及び安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について、受注者の責任において定めるものとする。なお、「見積参考図書」の有効期限は、本工事の入札（開札日）までとする。

本工事の内容については、契約数量表・数量計算書・設計図面のうち、契約数量表を優先する。



水道工事標準仕様書

1 総則

1.1 (適用)

- 1 水道工事標準仕様書(以下「標準仕様書」という。)は、明石市水道局が発注する水道管(導水・送水・配水)を布設する工事及び給水管工事(以下「工事」という。)に係る工事請負契約書(頭書を含み以下「契約書」という。)及び設計図書の内容について統一的な解釈及び運用を図るとともに、その他必要な事項を定め、もって契約の適正な履行の確保を図るためのものである。
- 2 契約書及び仕様書・契約数量表・設計図(以下「設計図書」(標準仕様書を除く)という。)に記載された事項は、この標準仕様書に優先する。
- 3 本工事は、契約書及び設計図書のほか、水道工事標準仕様書(日本水道協会)・給水装置工事施行基準(明石市水道局)及びその他関係図書による。ただし、土木工事共通仕様書(兵庫県県土整備部監修)の水道編の第2章第2節については、適用しない。

1.2 (法令等の厳守)

本工事の施工にあたっては、工事に関する関係法令等を厳守し、安全に行わなければならない。

1.3 (書類の提出)

- 1 受注者は、明石市及び明石市水道局の定める様式による書類を提出すること。
- 2 提出した書類に変更が生じたときは、速やかに変更の書類を提出すること。

1.4 (監督員)

- 1 監督員とは、水道法第12条により、水道局が指定した当該工事を監督する職員(主任監督員及び監督員)をいう。

1.5 (工事实績データの登録)

水道工事を2件以上合併で発注している工事については、工事請負代金合計額が500万円以上の場合に一括の内容で登録すること。

1.6 (目的物の引渡し)

工事目的物の引渡しは、工事完成届兼(引渡書)を水道局に提出し完成検査に合格したときをもって完了とする。

2 安全管理

2.1 (事故防止)

- 1 工事中、不明管が出てきた場合には、監督員に連絡し、監督員の指示に従って、他の地下埋設物管理者に確認したうえ、適切に処理すること。
- 2 掘削及び埋戻し工事中、他の構造物及び地下埋設物の損傷及び陥没等を発見した際には、その場で監督員に連絡し、指示を受けること。その際には写真撮影し、関係部署に報告できるようにしておくこと。

また、当該施工範囲内で道路構造物や他の地下埋設物の損傷及び陥没等を発見した際には、遅滞なく監督員に連絡すること。

- 3 受注者は熱中症対策等について十分に注意し、作業員に水分補給・塩分補給・休憩等を十分とらせること。

2.2 (事故発生時の措置)

事故等緊急非常事態が発生した時は、第三者及び作業員等の人命救助、人命の安全確保を最優先させるものとし、応急措置を講じるとともに、監督員及び関係各部署へ連絡しなければならない。また、軽微な事故等についても速やかに監督員に事故報告書等で報告するとともに、その指示を受けるものとする。

2.3 (現場の整理整頓)

- 1 受注者は工事施工中、交通及び保安上の障害とならないよう機械器具、不用土砂等を使用の都度、整理整頓し、現場内及びその付近は常に清潔に保つこと。その際に、機械器具等を無断で家の敷地に置いたり、壁等に立て掛けたりしないこと。
- 2 受注者は、日々の現場作業終了時には、固定している看板類及び必要な安全施設等以外の工事関係物は仮設事務所等に持ち帰り、適切に保管すること。

3 工事施工

3.1 (一般事項)

- 1 受注者は、工事に先立ち、施工条件等を十分に把握したうえで、設計図書及び事前調査結果に基づいて検討し、施工方法、工程、安全対策、環境対策等必要な事項を記載した施工計画書を提出し、これに基づき、工事の適正な施工管理を行うこと。なお、施工計画書作成に当たっては、監督員と十分打合せを行うこと。

また、施工時において事前検討の条件と実際の施工条件との相違又は新たに生じた状況等により施工計画書に記載した内容に変更が生じるときは、監督員と協議し、速やかに施工計画書を追加及び変更すること。

- 2 施工期限が定められた箇所がある場合は、監督員と十分協議し、工程の進行を図ること。
- 3 受注者は、監督員が常に施工状況の確認が取れるように日報等の必要な資料を速やかに提出すること。

3.2 (現場立会、架線・地下埋設物調査及び現地調査)

- 1 近接構造物(家屋含む)の事前調査を行い、損傷等の有無を撮影し、関係者に提出すること。
- 2 施工範囲内の道路上の境界ピン・境界杭の有無を調査し報告すること。ある場合は監督員と協議し、その対応を検討すること。
- 3 当該工事付近に公共基準点がある場合は、明石市公共基準点管理保全要領に定めるところにより、必要な申請書等を作成するほか、公共基準点を保持するための測量をすること。
- 4 給水管切替工事がある場合、施工前に今回給水管を切替する家屋に漏水が無いかの確認及び給水管口径の確認をし、報告すること。
- 5 その他設計図書に対する疑義がある場合は、工事打合せ簿にて協議をすること。

3.3 (地元説明)

- 1 受注者は、工事着手前に所定の工事標示を行い、付近住民に工事内容を説明して協力を求め、工事の円滑な遂行をはかること。
- 2 工事のため騒音を発し、付近住民の日常生活・業務等を妨害しないように配慮すること。

- 3 施工について営業等に支障があると思われる時は、監督員並びに付近住民と協議の上で、できるだけこの軽減に努めること。
- 4 工事範囲内に自治会がある場合、当該自治会長に第 1 項と同様の工事説明を行うとともに、必要に応じて、工事広報の配布を行い工事同意書の提出を求めること。
- 5 受注者は施工前及び施工中(断水・濁水などの可能性がある場合)には、関係家屋にビラ等を配布し、周知すること。
- 6 給水管の切替等で個人の敷地内に入り、量水器または散水栓等から空気を抜く作業等を行う場合は、その旨を事前に説明し、トラブルが起らないようにすること。

3.4 (試掘調査)

試掘調査前に事前立会等で確認した試掘位置、試掘目的を工事打合簿にて報告すること。また、試掘調査後は、以下の項目について速やかに結果をまとめ、工事打合簿にて報告または協議すること。

- ・ 試掘断面の地下埋設物の状況
- ・ 既設舗装構成
- ・ 設計図書通りの撤去・埋設が可能か
- ・ 既設管の外面腐食等の異常の有無
- ・ 接続部がインチ管の場合、既設管外周長さを測定し、インチ管であることの確認
- ・ その他試掘調査結果で判明した協議事項

3.5 (夜間工事)

夜間工事をする場合は、十分な照明を行うとともに保安設備を施すこと。また、付近住民に工事のお知らせビラを配布し、説明するとともに協力を依頼すること。施工中は極力騒音・照明等により迷惑をかけないように十分配慮すること。騒音対策には、管切断時のロールカッターの使用や防音シートの使用も検討すること。

3.6 (立会)

下記の項目について事前に立会願を提出し、立会を行うものとする。

- ・ 材料納入時（在庫品使用時含む）の材料検収
- ・ 通常配管及び不断水工事箇所の水圧試験
- ・ その他監督員が必要と判断した事項

3.7 (工事関係書類の整備)

受注者は監督員の点検を随時受けられるよう、工事及び安全に関する書類を整備しておくこと。

4 材料

4.1 (水道材料の規格)

本工事に使用する水道材料は、設計図書に品質規格を規定されたものを除き、明石市水道局が材料分類ごとに指定したメーカー（別添使用材料登録業者一覧表及び給水装置工事施行基準参照）の製品（以下「指定品」という。）を使用すること。指定品以外の製品及び特殊品を使用する場合には、監督員の承諾を得た後、使用すること。

設計図書及び特記仕様書に別途記載がある場合を除き、明石市水道局の規格を以下に示す。

- (1) K形ゴム輪は、同軸押輪・芯出ゴム輪又は同芯ゴム輪と同等品以上とすること。
- (2) 特殊押輪、耐震補強金具等は耐震型(離脱防止性能 3DkN 以上)を使用すること。

- (3) K形管のT頭ボルト・ナットは、酸化被膜製と同等品以上とすること。
- (4) フランジボルト・ナットは SUS 製を使用すること。特に消火栓及び空気弁の立ち上がり部におけるフランジ継手に使用するフランジナットは SUS304 製(緩み防止仕様)を使用すること。
- (5) フランジ部の紛体塗装面に接触する箇所には、ワッシャー(SUS 製)を使用すること。
- (6) 弁栓類等で使用するフランジの規格は2種(0.75MPa)とする。特に消火栓及び空気弁の立ち上がり部に使用するフランジ継手材はフランジ接合補強具(LSP 形)を使用すること。
- (7) 仕切弁・消火栓・補修弁の開閉方向は左開きとする。
- (8) 鉄蓋・受枠・ボックスは、明石市水道局性能規定書による製品とする。特に円形消火栓(空気弁)鉄蓋は耐スリップ車道用又は歩道用とする。
- (9) 割T字管の分岐口径φ150以下について、密着コアを使用すること。
- (10) サドル分水栓穿孔箇所については、密着コアを使用すること。
- (11) 直管に内面粉体塗装を使用している路線については、「粉体塗装管」と記載しているポリエチレンスリーブを使用すること。
- (12) 表示帯(管明示シート)は、15cm幅2倍折の水道を明記したエコマーク認定品を使用すること。
- (13) 管明示テープは、5cm幅の水道用(青色)、年号(工事発注年度)を明記したエコマーク認定品を使用すること。(導水管は黄色無地を併用)

4.2 (土木材料の規格)

本工事に使用する土木材料は、以下に示す規格及び設計図書に品質規格を規定されたものを除き、土木工事共通仕様書(兵庫県県土整備部監修)に示す品質規格に適合したもの、またはこれと同等以上の品質を有するものとする。

- (1) スクリーニングスは、JIS A5001 F-2.5とする。ただし、監督員と協議のうえ、砂を使用する場合は、海砂(洗砂)とする。
- (2) 再生砕石は、路盤部分はRC-30とし、その他はRC-40とする。
- (3) 粒調砕石は、M-30とする。
- (4) 再生密粒度アスファルトは、最大粒径13mm、締固め密度2.35t/m³とする。
- (5) 再生粗粒度アスファルトは、最大粒径20mm、締固め密度2.35t/m³とする。
- (6) 再生アスファルト安定処理混合物は、最大粒径25mm、締固め密度2.35t/m³とする。

4.3 (水道材料の確認)

- 1 受注者は、材料確認した材料が使用時に損傷、変質等している場合は、新品と取替、再確認を受けること。不良品は現場から直ちに搬出すること。
- 2 現地確認・試験掘削の結果等を十分反映させ、購入するものとする。
- 3 仮給水管切替は、現地確認により既設給水管の口径等を十分把握し、反映させるものとする。
- 4 支給材料については、監督員と受注者が確認した後、受領し、支給品受領書(様式15)を提出すること。

5 管布設工事

5.1 (配管技能者)

- 1 受注者は、鑄鉄管布設工事に先立ち、当該工事に適する下記の配管技能者の登録証、受講証等を施工体制台帳に添付すること。配管技能者とは、日本水道協会の配水管技能登録者(一般登録・耐震登録・大口径)又は、各管協会や各メーカーの継手接合研修会受講証等を有する者とする。日本水道協会の配管技能登録者の場合、一般登録はT・K形管等の一般継手(φ450mm以下)、耐震登録はNS・GX形管等の耐震継手(φ450mm以下)、大口径は一般継手と耐震継手(全口径)を配管出来る技能を有するものとする。各管協会や各メーカーの継手接合研修会受講証等を有する者の場合、管種・口径を指定している受講証については、その管種・口径とし、NS形・耐震管の受講証については、その口径のNS・GX形管等の耐震継手及び一般継手を配管出来る技能を有するものとする。
- 2 受注者は、鑄鉄管を布設するときには、上記の配管技能者が、当該工事で使用する管種・口径の施工要領等に従って施工すること。
- 3 受注者は、給水管の施工がある場合には、明石市水道事業指定給水装置工事事業者証及びその業者が雇用する給水装置工事主任技術者の資格証の写しを施工体制台帳に添付すること。また、その給水装置工事主任技術者が給水装置工事施行基準(明石市水道局)に基づき監督・指導すること。
- 4 受注者は、上記以外の管種(配水用ポリエチレン管・鋼管等)の施工、または、管更生等が含まれる場合、それぞれの資格証等を有する技能者が施工すること。また、その資格証等を施工体制台帳に含めて監督員に提出すること。

5.2 (工種の制限)

工事の確実性、周辺への水の濁り等を考慮して、金曜日、土曜日及び祝日の前日には、工種を制限しているので監督員と協議し施工すること。

5.3 (断水を伴う連絡工事)

- 1 断水を伴う連絡工事箇所は、監督員立会の上、試掘調査を行い、連絡する既設管及び他の近接埋設物を確認すること。
- 2 断水を伴う連絡工事にあたっては、事前に施工日時等を監督員と調整の上行うこと。ただし、断水時間は13時30分から16時を基本とすること。断水時間を極力短縮するために必要な諸設備・機械器具及び車輛等を十分点検し、経験豊富な技術者と作業員を配置すること。
- 3 断水作業及び管内洗浄作業等に必要な弁栓類操作は、監督員または水道局職員の指導のもと、受注業者及び下請業者が行う、そのために必要な人員を監督員と協議し、確保すること。
- 4 万が一、連絡工事箇所周辺で濁水及び漏水が起こったときには、水道局職員の指示により周辺家屋への対応をすること。

5.4 (広報活動)

- 1 断水工事を行う場合には、事前に断水となる家屋等を調査した資料と、断水のビラを監督員が確認したあと、当該家屋に配布すること。そのビラには、日時・区域・連絡先及びその他必要事項を記入すること。
- 2 断水を伴わない場合でも、仕切弁の開閉操作等により、工事箇所周辺に濁水のおそれがある場合は、配布する家屋等を監督員と協議したうえで、断水のビラと同様の濁水のビラを監督員

が確認したあと、当該家屋に配布すること。

3 上記の広報活動をする場合に、当該区域内にある店舗・病院・工場・浴場等には事前に個別に了解を得ること。

4 受水槽物件があれば、事前にその設置管理者と打合せを行い、ポンプ電源や流入側バルブ等の閉止措置を行うこと。

5.5 (ボルトの締め付け)

1 ボルトの締め付けに際しては、対称的な位置を順次締め、片締めにならないように、ゴム輪の圧縮を均等にさせること。

2 インパクトレンチを使用する場合には、締め付けの7割程度とし、残りはトルクレンチで締め付けること。

3 トルクの管理については、チェックシートに全箇所記載し、竣工図書で提出すること。

5.6 (使用機材)

内面粉体塗装管の分水栓穿孔作業をするときは、先端角度が90°から100°、ねじれ角度が20°から30°の電動式穿孔機を使用すること。

5.7 (管の明示)

1 管の識別を明確にするために、管明示テープを使用して、上水道管であることを明らかにすること。

2 表示帯(管明示シート)は、管天より40cmの位置に丁寧に設置すること。

5.8 (仮消火栓)

仮消火栓を配置する箇所について、「仮消火栓」の看板等を設置して明示するとともに、撤去予定の消火栓の鉄蓋に使用禁止を明示すること。

5.9 (仮舗装復旧)

本工事において仮舗装復旧した箇所について、路面表示部分を掘削した場合は、本復旧までの間、同色のペイント等で修復すること。また、水道の仮舗装箇所と分かるように水色塗料で水道マーク表示を行うこと。

5.10 (水圧試験)

1 水道管の水圧試験は、水道局職員が管内充水後、特に監督員からの指示がある場合を除き、下記の試験水圧まで加圧し確認するものとする。

(1) 通常配管(以下の特殊箇所以外)の場合、試験水圧を0.75MPaとする。30分間以上の経過後、低下率1.0%以内を許容限度とする。

(2) 不断水工事の割T字管箇所は、試験水圧を1.25MPaとする。ただし、既設管の状態が悪い場合(FC管又は表面の腐食等が激しい場合)・ACP管・VP管の場合は、最高試験水圧は1.0MPa以下でもよい。5分間以上その状態を保持し、水圧の低下の無いことを確認するものとする。

(3) 中大口径のメカニカル継手管で、監督員が認めた場合は、テストバンドによる継手の水密性検査をもって、水圧試験に代えることが出来るものとする。この場合は、水圧0.50MPaを負荷して5分経過後に0.40MPa以上保持することを確認するものとする。

(4) 管更生の場合は、管更生区間のみで水圧試験を(1)の方法で行い、その後、その区間を含めた仕切弁から仕切弁の水圧試験を再度(1)の方法で行うものとする。ただし、管更生区間

のみの水圧試験にかかる材料（栓、押輪等）等は設計で計上するものとする。

(5) 配水管用ポリエチレン管、鋼管等の場合は、監督員の指示により、試験水圧及び方法を決定する。

2 給水管の水圧試験は、サドル分水栓部分のみ 1.75MPa まで加圧し、1 分間以上のその状態を保持し、水圧の低下の無いことを確認するものとする。

5.11 (水道メーターの確認)

仮給水管、給水管切替後は水道メーターの逆付けをしてないか確認すること。

6 提出書類

受注者は、工事請負契約に必要な書類を明石市水道局の入札・契約情報のホームページ及び土木請負工事必携(兵庫県県土整備部監修)に記載されている書類を関係部署に提出するほか、下記の書類を監督員に提出すること。ただし、監督員が必要でないとした場合は、この限りでない。

1 工事日報

受注者は、契約日から竣工日までの日々の作業において、必要な工種に対して工事日報を作成し、監督員にすみやかに提出しなければならない。工事日報に記入する項目は、表側に年月日、曜日、天気、工事名、工事場所、当初設計延長（口径別）、出来形延長（口径別、日毎延長、累計延長）、作業内容、使用材料（品名、形質、数量等）を、裏側に日毎の作業内容の図示（下記竣工図(水道管)・(給水管)と同様）とする。また、白色ケント紙 110kg（A 4 サイズ）で作成すること。

2 竣工図(水道管)

受注者は、竣工図（兼出来形図）を作成し、工事完成図書に添えて提出すること。竣工図（兼出来形図）には次にあげるものをもって構成する。

(1) 配水管平面図（他の埋設管等で切り回している箇所等は別途詳細図）は、布設位置、標準断面図、土被り、延長（管種・口径毎）、防護工等を以下のことに注意して記入すること。

a. 必ず方位を記入すること。

b. 直管、切管、異形管、弁栓類等の種別及び材質を表示すること。切管等の数値はmm表示とし、整数1位を四捨五入とし、2位表示とすること。

c. 特殊押輪、普通押輪、G-Link、ライナの区別を表示すること。

d. 配管材料記号、引出線及び部材名等を赤色で表示すること。

(2) 消火栓、空気弁、仕切弁、その他監督員の指示する箇所等についてはオフセット測量し、撤去されるおそれの無いマンホールの中心点や地先境界の角、その他3点以上の照点を定め水平距離を測定し記入する。

(3) 仕切弁・バタフライ弁・消火栓・空気弁・補修弁・不断水等の弁栓類関係について、使用したメーカー名を記入すること。

(4) 掘削断面に他企業埋設管（下水管、ガス管等）が出てきた箇所については、竣工図の断面箇所図に他企業埋設管の位置、口径がわかるように図示すること。

3 竣工図(給水管)

受注者は、竣工図を作成し、白色ケント紙 110kg（A 3 サイズ）を工事完成図書に添えて提出すること。竣工図には次にあげるものをもって構成する。

平面図には、口径、延長、家屋番号を、表には家屋番号、水道番号、家屋名、サドル分水栓、

本管深さ、PPユニオン、PPエルボ、VPユニオン、止水栓、ボックス、PPパイプ、本管止水距離、備考（接続した管種）を記入すること。

4 その他提出書類

書類名	提出時期	提出部数	備考
施工計画書	工事実工程着手前	2部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1部返却)
使用材料確認願 土木工事承諾願	工事実工程着手前	2部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1部返却)
施工体制台帳	下請負契約後速やかに	2部	配水管・給水管合併工事は併せて作成(1部返却)
工事日報	施工日以後速やかに	1部	配水管・給水管合併工事は併せて作成
竣工図(原図)	竣工時	1部	JPEG(A1・カラー・解像度200dpi以上)で保存したCDを提出
竣工図(焼き図)(原則A1サイズ)	竣工時	4部	上記竣工図折図で提出 白紙(カラー)・折図(横15cm×縦23cm)

その他明石市水道事業工事検査規程及び明石市水道事業施設等工事検査要綱に基づき必要書類を提出すること。CD及びDVDで提出するものは、工事名・内容が分かるようにすること。

* 竣工図書は、B4A4サイズの文書保存箱で工事名・施工年度等を明示して納品すること。
(施行期日)

この仕様書は、2022年9月1日より施行する。

使用材料登録業者一覧表

材料分類	適用規格等	登録業者名
水道用ダクタイル鋳鉄管直管 (内面エポキシ樹脂粉体塗装)	GX形5種管(溝切するときは1種管) NS形1種管	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、日本鋳鉄管㈱
水道用ダクタイル鋳鉄異形管 (内面エポキシ樹脂粉体塗装)		㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、日本鋳鉄管㈱、㈱ハズ、 ㈱岡本、朝日鋳工㈱、梅原工業㈱、九州鋳鉄管㈱、 大成機工㈱、クロダイト工業㈱、㈱イトー 鋳造
水道用ソフトシール仕切弁 (内外面エポキシ樹脂粉体塗装)	JIS B 2062又はJWWA B 120 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、内ねじ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱ハズ、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所 富士鐵工㈱、千代田工業㈱、角田鐵工㈱、宮部鐵工㈱
水道用ハタフライ弁 (内面エポキシ樹脂粉体塗装)	JWWA B 138 (内面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、前澤工業㈱、 ㈱清水鐵工所、㈱清水合金製作所、清水工業㈱、
水道用地下式消火栓 (内外面エポキシ樹脂粉体塗装)	JWWA B 103 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式、クランプ式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱ハズ、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 富士鐵工㈱、千代田工業㈱、 宮部鐵工㈱、協和工業㈱、角田鐵工㈱
水道用急速空気弁 (内外面エポキシ樹脂粉体塗装)	JWWA B 137 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112)	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱ハズ、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 千代田工業㈱、宮部鐵工㈱、 協和工業㈱、角田鐵工㈱
水道用補修弁 (内外面エポキシ樹脂粉体塗装)	JWWA B 126 (内外面はJIS A 5528又はJWWA A 112) 左回り開き、キャップ式、ボール式	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱ハズ、前澤工業㈱、 ㈱清水合金製作所、清水工業㈱、㈱清水鐵工所、 富士鐵工㈱、千代田工業㈱、 宮部鐵工㈱、角田鐵工㈱、協和工業㈱
伸縮可とう管 (内面エポキシ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、クロダイト工業㈱、 日本ヴィクトリック㈱
不断水割T字管及び不断水バルブ (接水部エポキシ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研
特殊継輪 (内面エポキシ樹脂粉体塗装)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、 川崎機工㈱、クロダイト工業㈱
特殊押輪	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、㈱水研、 川崎機工㈱、クロダイト工業㈱
K形ゴム輪	メーカー仕様(JWWA合格証印)	大成機工㈱、コスモ工機㈱、川崎機工㈱
ゴム輪(K形以外)、パッキン(LSP形以外)		大成機工㈱、コスモ工機㈱、川崎機工㈱、㈱クボタ ㈱栗本鐵工所、興和ゴム工業㈱、三報ゴム㈱、 日本鋳鉄管㈱、サンエス護謨工業㈱、協和工業(株)
フランジ継手材(LSP形)	メーカー仕様(JWWA合格証印)	協和工業㈱、サンエス護謨工業㈱
ボルト・ナット(緩み防止仕様以外) (GX形、NS形、フランジ形はステンレス製 、K形は酸化被膜製)		㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、㈱岡本、クロダイト工業㈱、 ㈱水研、㈱田中、㈱エスティム、日本鋳鉄管㈱、協和工業㈱ 日本鋳螺(株)
ボルト・ナット(SUS304製 緩み防止仕様)		協和工業㈱、サンエス護謨工業㈱
水道用ダクタイル鋳鉄管用 ホリエチレンスリーブ 明示テープ(エコ認定製品)	JWWA K 158 JDPA Z 2005	㈱クボタ、㈱栗本鐵工所、三報ゴム㈱、 サンエス護謨工業㈱、ヨツギ㈱
鉄蓋・受枠	明石市性能規定書	日之出水道機器㈱、長島鋳物㈱、スズテック㈱、 ㈱ダイモン
ボックス(レジンコンクリート製)	明石市性能規定書	日之出水道機器㈱、三国プラスチック㈱、長島鋳物㈱ スズキ鋳鉄工業㈱、㈱ダイモン
仮配管	SUS管 PE管	明和工業㈱、㈱多久製作所 ㈱光明製作所

φ 100配水管(材料)

直管・切管使用状況(切管の詳細は切管調書)				本数	延長	備考
直管 (L= 5.0 m)				56	280.000	
切管使用本数				4	19.500	
甲切管				3	6.000	
乙切管①				3	7.500	
乙切管②				3	6.000	
名称・形質等			管長	当初		備考
				数量	延長	
PE	EFフランジ	φ 75	0.160	1	0.160	鑄鉄製
PE	EF片受ベンド	φ 75 × 90°	0.500	1	0.500	
PE	EF受口付直管	φ 100 × 5000		60	299.500	
PE	EF片受レデューサ	φ 100 × 75	0.420	1	0.420	
PE	EF両受ベンド	φ 100 × 45°	0.380	2	0.760	
	EF片受フランジ短管	φ 100	0.180	1	0.180	
PE用	EFソケット	φ 100		2		
PE用	ソフトシール仕切弁(挿し口)	φ 100	0.860	2	1.720	密着コア含む
	ソフトシール仕切弁付割T字管	φ 100 × φ 100		1		
	フランジ接合補強具(LSP形)	φ 100		1		
	仕切弁ボックス	H=340		1		
	仕切弁ボックス	H=1040		2		
	空気弁付消火栓(浅埋型)	φ 75		2		排気量 φ 25
	ケレップ式単口消火栓(浅埋形)	φ 75 × φ 65		1		
	フランジ短管	φ 75 × 300		2		鑄鉄製
	フランジ付EFチーズ	φ 100 × φ 75	0.120	3	0.360	
	フランジ接合補強具(LSP形)	φ 75		5		
	空気弁室(明石IV型・丸型)	H=340		1		
	空気弁室	H=1040		1		
	消火栓室(明石IV型・丸型)	H=340		1		
φ 75管材料延長計					0.660	
φ 100管材料延長計					302.940	
					303.600	

PE φ 100切管調書

直管 5.0 m

切管 番号	延長	甲切管	乙切管②			乙切管 ①	管延長	残管 延長	切断数
			1	2	3				
1	5.00	1.00	1.00			3.00	5.00		2
2	5.00	1.00	3.50				4.50	0.50	2
3	5.00		1.50			3.50	5.00		1
4	5.00	4.00				1.00	5.00		1
既設管接続箇所									
計							19.50	0.50	6

φ 100配水管(手間)

ポリエチレン管(EF接合)布設工	φ 75	0.7 m	
ポリエチレン管継手工(EF接合)	φ 75	2 箇所	1口継手
ポリエチレン管(EF接合)布設工	φ 100	301.2 m	区間距離-仕切弁延長計
ポリエチレン管切断工	φ 100	6 口	
ポリエチレン管継手工(EF接合)	φ 100	7 箇所	2口継手
ポリエチレン管継手工(EF接合)	φ 100	61 箇所	1口継手
フランジ継手工	φ 100	1 口	
仕切弁設置工	φ 100	2 箇所	
不断水連絡工	φ 100 × 100	1 箇所	
密着コア取付工	φ 100	1 箇所	
仕切弁ボックス設置工	H=340	1 箇所	
仕切弁ボックス設置工	H=1040	2 箇所	
空気弁設置工		2箇所	
消火栓設置工		1箇所	フランジ継手工φ75 1口含む
フランジ継手工	φ 75	4 口	
空気弁ボックス設置工	H=340	1 箇所	
空気弁ボックス設置工	H=1040	1 箇所	
消火栓ボックス設置工	H=340	1 箇所	

仮配水管土工集計表

	全体	土工無	土工1	土工2	土工3	土工4
			As無し	As t=50	As t=50	割丁
			d=400	d=400	d=1200	d=1200
延長 箇所等	303.6 m		14.1 m	274.4 m	15.1 m	1箇所

工 種	合計 数量	採用 数量	単位	土工1	土工2	土工3	土工4
舗装版切断(As) t≤15cm	583.00	580	m		548.80	30.20	4.00
舗装版取壊し積込工 t≤10cm	174.70	175	m ²		164.64	9.06	1.00
掘削積込工	146.25	150	m ³	5.33	128.42	12.50	
掘削積込工(補助的作業なし)	0.95	1.0	m ³				0.95
掘削(人力)	0.41	0.4	m ³				0.41
残塊処分工(As)	8.73	9	m ³		8.23	0.45	0.05
残塊処分工(土砂)	147.61	150	m ³	5.33	128.42	12.50	1.36
仮復旧工(密粒度(再)(13))	174.70	175	m ²		164.64	9.06	1.00
路盤工(粒調碎石) t=10cm	174.70	175	m ²		164.64	9.06	1.00
埋戻工(再生碎石)	53.09	53	m ³	3.38	41.16	7.70	0.85
埋戻工(スクリーニングス)	73.40	73	m ³	1.78	67.50	3.71	0.41

φ100配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		As無し	無し	無し

新設管

管種	管外径	管断面積
PEφ100	0.125	0.012

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	掘削深(H)
14.1	0.60	0.40		0.63

工種	施工厚	計算式			数量
		幅等	厚	延長 箇所等	
掘削積込工	0.63	0.60 ×	0.63 ×	14.1	5.33
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量			5.33
埋戻工(再生碎石)	0.40	0.60 ×	0.40 ×	14.1	3.38
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.23	0.60 × - 0.012	0.23 × ×	14.1 14.1	1.78

φ100配水管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		車道(As5cm)	As5cm	粒調碎石10cm

新設管

管種	管外径	管断面積
PEφ100	0.125	0.012

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	掘削深(H)
274.4	0.60	0.60	0.05	0.83

工種	施工厚	計算式			数量
		幅等	厚	延長 箇所等	
舗装版切断(As) t≤15cm	0.05			274.40 × 2	548.80
舗装版取壊し積込工 t≤10cm	0.05	0.60		× 274.40	164.64
掘削積込工	0.78	0.60 ×	0.78 ×	274.40	128.42
残塊処分工(As)				164.64 × 0.05	8.23
残塊処分工(土砂)				掘削積込工と同量	128.42
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60		× 274.40	164.64
路盤工(粒調碎石)	0.10	0.60		× 274.40	164.64
埋戻工(再生碎石)	0.25	0.60 ×	0.25 ×	274.40	41.16
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.43	0.60 ×	0.43 ×	274.40	67.50
		- 0.012	×	274.40	

φ100配水管(土工3)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		車道(As5cm)	As5cm	粒調碎石10cm

新設管

管種	管外径	管断面積
PEφ100	0.125	0.012

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	掘削深(H)
15.1	0.60	1.20	0.05	1.43

工種	施工厚	計算式			数量
		幅等	厚	延長 箇所等	
舗装版切断(As) t≤15cm	0.05			15.10 × 2	30.20
舗装版取壊し積込工 t≤10cm	0.05	0.60		× 15.10	9.06
掘削積込工	1.38	0.60 ×	1.38 ×	15.10	12.50
残塊処分工(As)		9.06 ×	0.05		0.45
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量			12.50
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	0.60		× 15.10	9.06
路盤工(粒調碎石)	0.10	0.60		× 15.10	9.06
埋戻工(再生碎石)	0.85	0.60 ×	0.85 ×	15.10	7.70
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.43	0.60 ×	0.43 ×	15.10	3.71
		- 0.012	×	15.10	

φ100×100割T字管(土工4)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行仮路盤	
昼間施工		車道(As5cm)	As5cm	粒調碎石10cm	

施工管種

分岐元管種	分岐口径	管外径	管断面積
鑄鉄管φ100	100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚	矢板
1.00	1.00	0.10	1.20	1.42	0.05	無し

工種	施工厚	計算式				数量	1箇所計
		幅等	厚	延長	箇所等		
舗装版切断(As) t≤15cm	0.05	1.00 ×	2 +	1.00 ×	2	4.00	4.00
舗装版取壊し積込工 t≤10cm	0.05	1.00	×	1.00		1.00	1.00
掘削積込工(補助的作業なし)	0.95	1.00 ×	0.95 ×	1.00		0.95	0.95
掘削(人力) (管断面控除)	0.42	1.00 × — 0.011	0.42 × ×	1.00 1.00		0.41	0.41
残塊処分工(As)		1.00 ×	0.05			0.05	0.05
残塊処分工(土砂)		0.95 +	0.41			1.36	1.36
仮復旧工(密粒度(再)(13))	0.05	1.00	×	1.00		1.00	1.00
路盤工(粒調碎石)	0.10	1.00	×	1.00		1.00	1.00
埋戻工(再生碎石)	0.85	1.00 ×	0.85 ×	1.00		0.85	0.85
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.42	1.00 × — 0.011	0.42 × ×	1.0 1.0		0.41	0.41

φ 100配水管撤去(材料)

名称・形質等		管長	数量	延長	備考
DGX	ケレップ式単口消火栓(浅埋形)	φ 75 × φ 65	2	1.040	
	フランジ短管	φ 75 × 200	2		
	補修弁(キャップ式)	φ 75 × 100	2		
	フランジ付T字管	φ 100 × φ 75	2		
	フランジ接合補強具(LSP形)	φ 75	6		
	消火栓室(明石Ⅳ型・丸型)(耐スリップ用 車道)	H=740	2		
	耐震型不断水バルブ(鑄鉄管用)	φ 100	2		
DGX	仕切弁室(明石Ⅴ型)	H=740	2		
	帽(プラグ付き)	φ 100	2		
GX形	G-Linkセット	φ 100	4		
	既設管用耐震金具(3DkN以上)	φ 100	2		
K形	表示帯		1.0		
	ポリエチレンスリーブ	φ 100	1.0		
	管明示テープ(区間距離 × 1.42 / 20 =)		1		
HIVP		φ 40		4.000	放水用
HIエルボ		φ 40	6		
止水栓		φ 40	2		
止水栓BOX		H=600	2		
給水管切替材料		φ 100 × φ 20	2		
サドル分水栓(鑄鉄管用)		φ 100 × φ 20	2		
ポリエチレン管		φ 20	20.5		
				1.040	

既設管撤去

鑄鉄管吊込み撤去工

口径	延長 (m)	撤去重量 (t)	土工延長 計	歩道Asなし
合計	3.0	0.07	3.0	3.0
100 0.023 t/m	3.0	0.07	3.0	土工1 3.0

鑄鉄管(既設管)撤去切断工

口径	切断箇所 計 (口)	既設管と 切断にて接 続箇所(口)	既設管連 続場所の 切断箇所 (口)	計算式
100	4	2	2	

	管類	仕切弁関係	消火栓関係	空気弁関係	計	運搬回数
スクラップ処分	0.07	0	0.00	0.00	0.07	1

φ 100配水管撤去(手間)

名称・形質等	数量	摘要
鋳鉄管吊込み据付工 φ 100	1.0 m	
メカニカル継手工(特殊押輪) φ 100	2 口	耐震金具含む
消火栓設置工	2箇所	フランジ継手工 φ 75 1口含む
フランジ継手工 φ 75	4 口	
消火栓ボックス設置工 H=740	2 箇所	
耐震型不断水バルブ設置工 φ 100	2 箇所	
仕切弁ボックス設置工 H=740	2 箇所	
GX継手工(異形管接合 G-Link使用) φ 100	4 口	
管明示シート工	1.0 m	
ポリエチレンスリーブ被覆工 φ 100	1.0 m	
管明示テープ工 φ 100	1.0 m	
硬質塩化ビニル管据付工 φ 40	4.0 m	
硬質塩化ビニル管 TS継手工 φ 40	18 口	
止水栓 取付工 φ 40	2 箇所	止水栓ボックス含む
給水管切替工 φ 100 × φ 20	2箇所	
ポリエチレン管布設工 φ 20	20.5 m	

	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5	
	消火栓設置	放水用配管	不断水バルブ	耐震金具	給水管切替	給水管切替
	As 無し	As 無し	As 無し	As 無し	As 無し	As 無し
	d=1100	d=700	d=1100	d=1100	穿孔部	給水管部
延長 箇所等	1.0 m	4.0 m	2箇所	2箇所	1箇所	4.0 m

工 種	合計 数量	採用 数量	単位	土工1	土工2	土工3	土工4	土工5	
掘削積込工	13.42	13	m3	1.99	1.48				9.95
掘削積込工(補助的作業なし)	4.32	4	m3			2.60	1.08	0.64	
掘削(人力)	2.24	2	m3			1.48	0.48	0.28	
残塊処分工(土砂)	20.90	21	m3	1.99	1.48	4.08	1.56	1.84	9.95
埋戻工(再生碎石)	13.89	14	m3	1.35	0.80	2.60	1.08	0.80	7.26
埋戻工(スクリーニングス)	6.19	6	m3	0.72	0.68	1.48	0.48	0.14	2.69

φ100配水管(土工1)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		歩道As無し		

新設管

管種	管外径	管断面積
DGX-Sφ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	掘削深(H)
1.0	0.60	1.10		1.32

既設管

管種	撤去延長	平均土被り	管外径	管断面積	管底深	平均土被り根拠
鑄鉄管φ100	3.0	1.1	0.118	0.0110		

工種	施工厚	計算式			数量
		幅等	厚	延長 箇所等	
掘削積込工	1.32	0.60 × - 0.011	1.32 × ×	3.00 3.00	1.99
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量			1.99
埋戻工(再生碎石)	0.75	0.60 ×	0.75 ×	3.00	1.35
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.42	0.60 × - 0.011	0.42 × ×	3.00 3.00	0.72

放水用配管(土工2)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		歩道As無し		

新設管

管種	管外径	管断面積
HIVP φ40	0.040	0.001

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	(平均)土被り(d1)	既設舗装厚	掘削深(H)
4.0	0.50	0.70		0.74

工種	施工厚	計算式			数量
		幅等	厚	延長 箇所等	
掘削積込工	0.74	0.50 ×	0.74 ×	4.00	1.48
残塊処分工(土砂)		掘削積込工と同量			1.48
埋戻工(再生碎石)	0.40	0.50 ×	0.40 ×	4.00	0.80
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.34	0.50 × - 0.001	0.34 × ×	4.00 4.00	0.68

φ100不断水簡易バルブ(土工3)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		歩道As無し		

施工管種

管種	管外径	管断面積
鑄鉄管φ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	(平均)土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.20	1.20	0.20	1.10	1.42	

工種	施工厚	計算式			数量	2箇所計
		幅等	厚	延長 箇所等		
掘削積込工(補助的作業なし)	0.90	1.20 ×	0.90 ×	1.20	1.30	2.60
掘削(人力) (管断面控除)	0.52	— 1.20 × 0.011	0.52 × ×	1.20 1.20	0.74	1.48
残塊処分工(土砂)		1.30 +	0.74		2.04	4.08
埋戻工(再生碎石)	0.90	1.20 ×	0.90 ×	1.20	1.30	2.60
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.52	— 1.20 × 0.011	0.52 × ×	1.20 1.20	0.74	1.48

φ100耐震金具設置(土工4)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		歩道As無し		

施工管種

管種	管外径	管断面積
鑄鉄管φ100	0.118	0.011

掘削断面

土工延長(L)	掘削幅(W)	管下掘削深	(平均)土被り(d1)	掘削深(H)	既設舗装厚
1.00	0.60	0.10	1.10	1.32	

工種	施工厚	計算式			数量	2箇所計
		幅等	厚	延長 箇所等		
掘削積込工(補助的作業なし)	0.90	0.60 ×	0.90 ×	1.00	0.54	1.08
掘削(人力) (管断面控除)	0.42	— 0.60 × 0.011	0.42 × ×	1.00 1.00	0.24	0.48
残塊処分工(土砂)		0.54 +	0.24		0.78	1.56
埋戻工(再生碎石)	0.90	0.60 ×	0.90 ×	1.00	0.54	1.08
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.42	— 0.60 × 0.011	0.42 × ×	1.00 1.00	0.24	0.48

給水管(土工5)

道路条件

施工区分	道路区分	歩車道別	仮舗装	先行路盤
昼間施工		歩道As無し		

新設/既設	管種	管外径	管断面積
既設	鑄鉄管φ100	0.118	0.011

分水穿孔部

箇所数	本管掘削幅(W)	個別延長	管下掘削深	本管土被り	掘削深	既設舗装厚
2	0.60	0.60	0.10	1.10	1.32	

給水管部

掘削幅	掘削深	給水管延長	土工延長	土工延長根拠
0.50	1.00	20.50	19.90	20.5-0.6/2×2

分水穿孔部

工種	施工厚	計算式			数量	2箇所計
		幅等	厚	延長 箇所等		
掘削積込工(補助的作業なし)	0.90	0.60 ×	0.90 ×	0.60	0.32	0.64
掘削(人力) (管断面控除)	0.42	0.60 × 0.011	0.42 × ×	0.60 0.60	0.14	0.28
残塊処分工(土砂)		0.64 +	0.28		0.92	1.84
埋戻工(再生碎石)	1.12	0.60 ×	1.12 ×	0.60	0.40	0.80
埋戻工(スクリーニングス) (管断面控除)	0.20	0.60 × 0.011	0.20 × ×	0.60 0.60	0.07	0.14

給水管部

工種	施工厚	計算式			数量
		幅等	厚	延長 箇所等	
掘削積込工	1.00	0.50 ×	1.00 ×	19.90	9.95
残塊処分工(土砂)		9.95			9.95
埋戻工(再生碎石)	0.73	0.50 ×	0.73 ×	19.90	7.26
埋戻工(スクリーニングス)	0.27	0.50 ×	0.27 ×	19.90	2.69

舗装復旧関係

車道As1層(t=5cm)

施工面積	採用面積
890.5	891

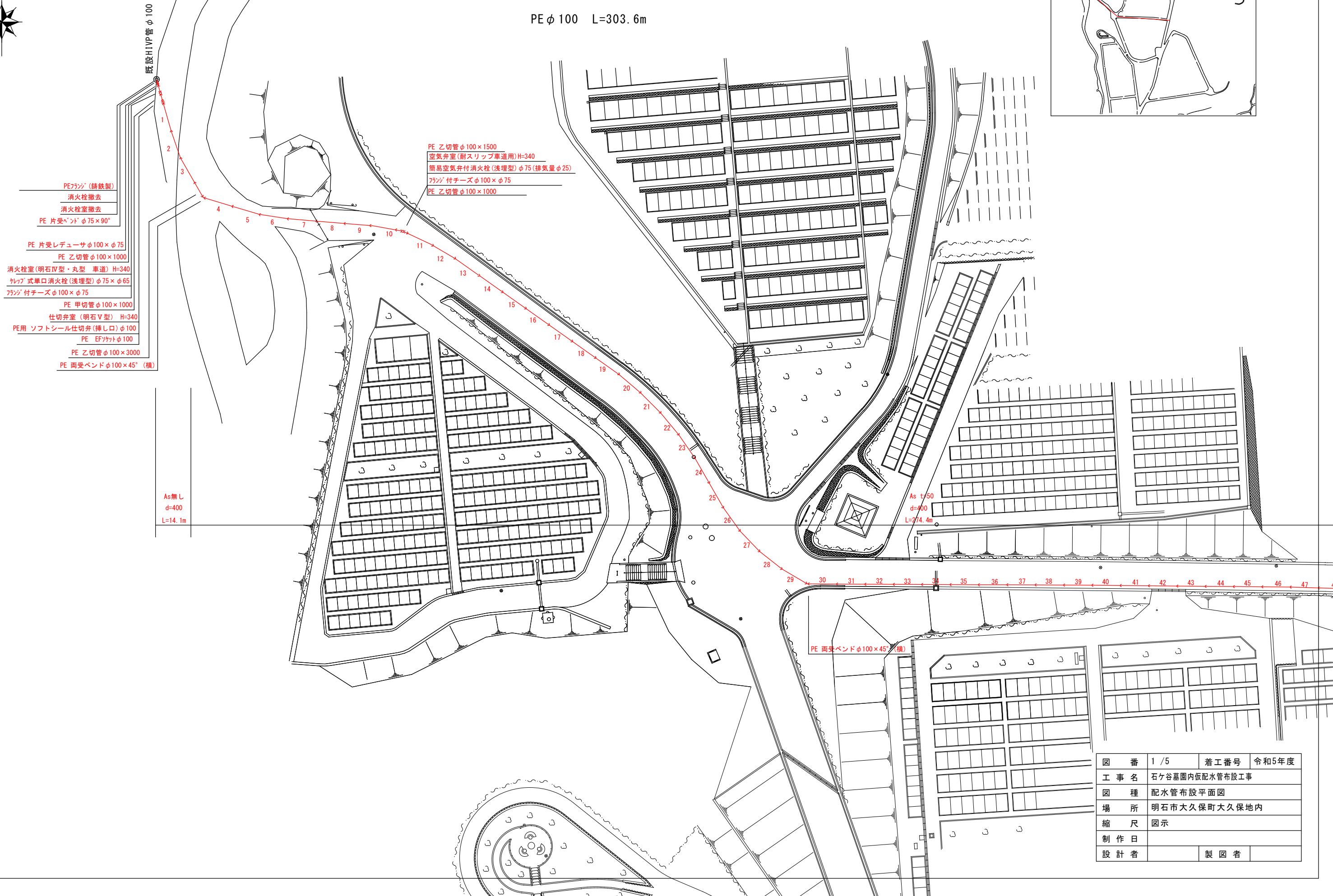
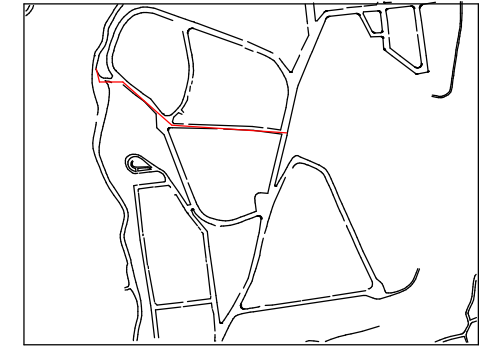
工種	施工厚等	計算式	数量	採用数量	単位
舗装版切断(As) t≤15cm	0.05	4.6 + 17.9 + 100.0 + 19.3 + 4.0 + 169.6 + 6.7	322.1	320	m
舗装版取壊し積込工 t≤10cm	0.05	890.5	890.5	891	m ²
残塊処分工(As)		890.5 × 0.05	44.5	45	m ³
不陸整正工(粒調碎石)	0.03	890.5	890.5	891	m ²
表層工(密粒度(再)(13)、PK-3)	0.05	890.5	890.5	891	m ²



配水管布設平面図(その1) S=1/300

PE φ 100 L=303.6m

位置図 S = 1/ 5000



- PEフランジ (鋳鉄製)
- 消火栓撤去
- 消火栓室撤去
- PE 片受バンド φ 75 × 90°
- PE 片受レデュサー φ 100 × φ 75
- PE 乙切管 φ 100 × 1000
- 消火栓室 (明石IV型・丸型 車道) H=340
- パレット式単口消火栓 (浅埋型) φ 75 × φ 65
- フランジ付チーセス φ 100 × φ 75
- PE 甲切管 φ 100 × 1000
- 仕切弁室 (明石V型) H=340
- PE用 ソフトシール仕切弁 (挿し口) φ 100
- PE EFソケット φ 100
- PE 乙切管 φ 100 × 3000
- PE 両受バンド φ 100 × 45° (横)

As無し
d=400
L=14.1m

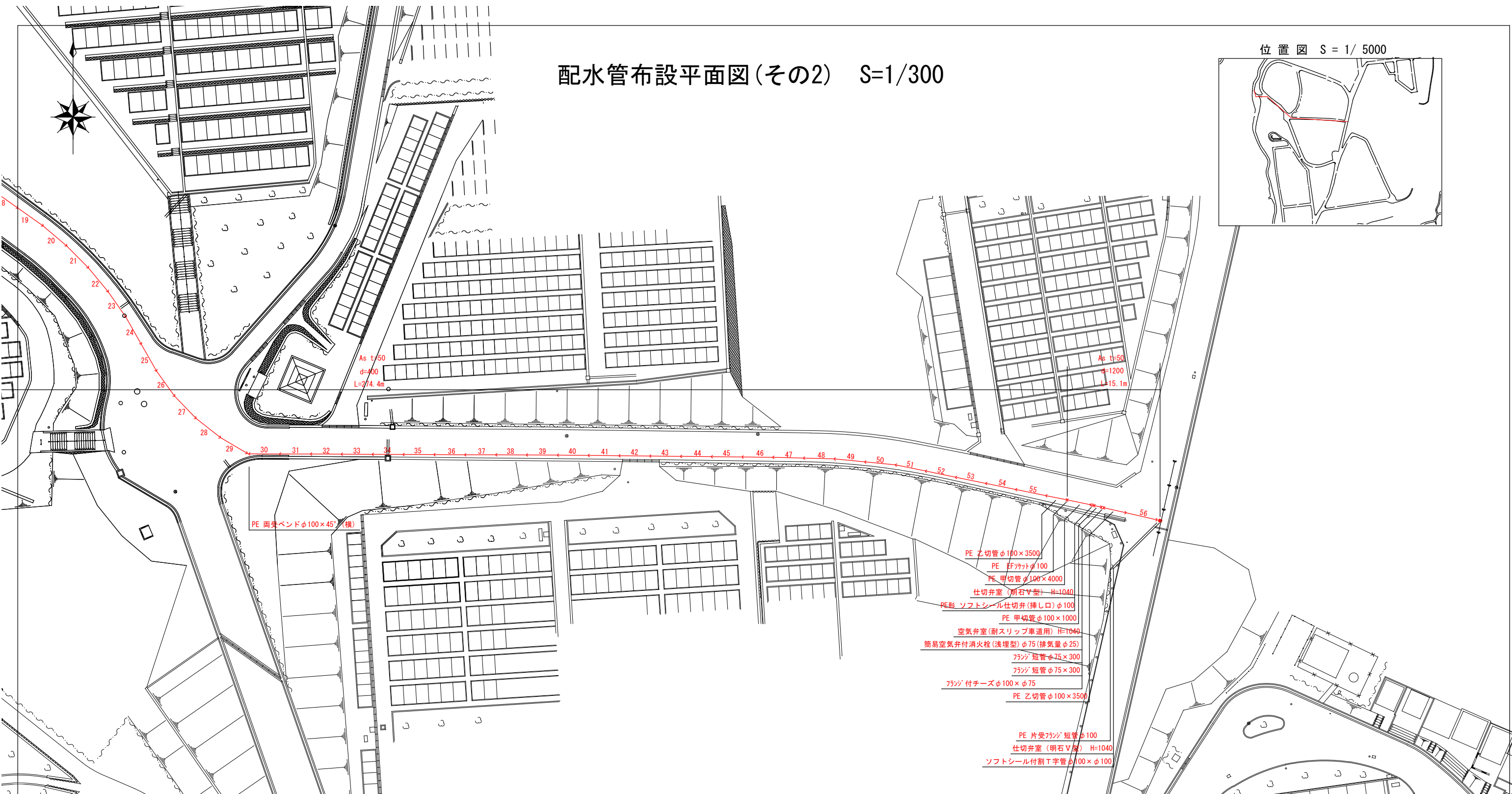
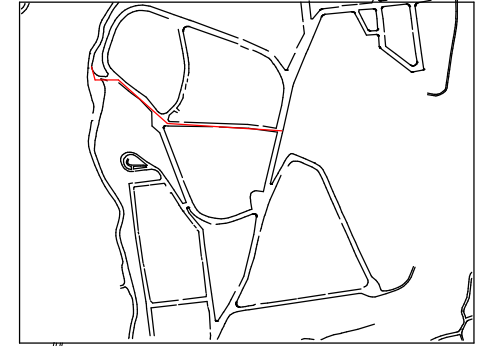
As t=50
d=400
L=274.4m

PE 両受バンド φ 100 × 45° (横)

図番	1 / 5	着工番号	令和5年度
工事名	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事		
図種	配水管布設平面図		
場所	明石市大久保町大久保地内		
縮尺	図示		
制作日			
設計者	製図者		

配水管布設平面図(その2) S=1/300

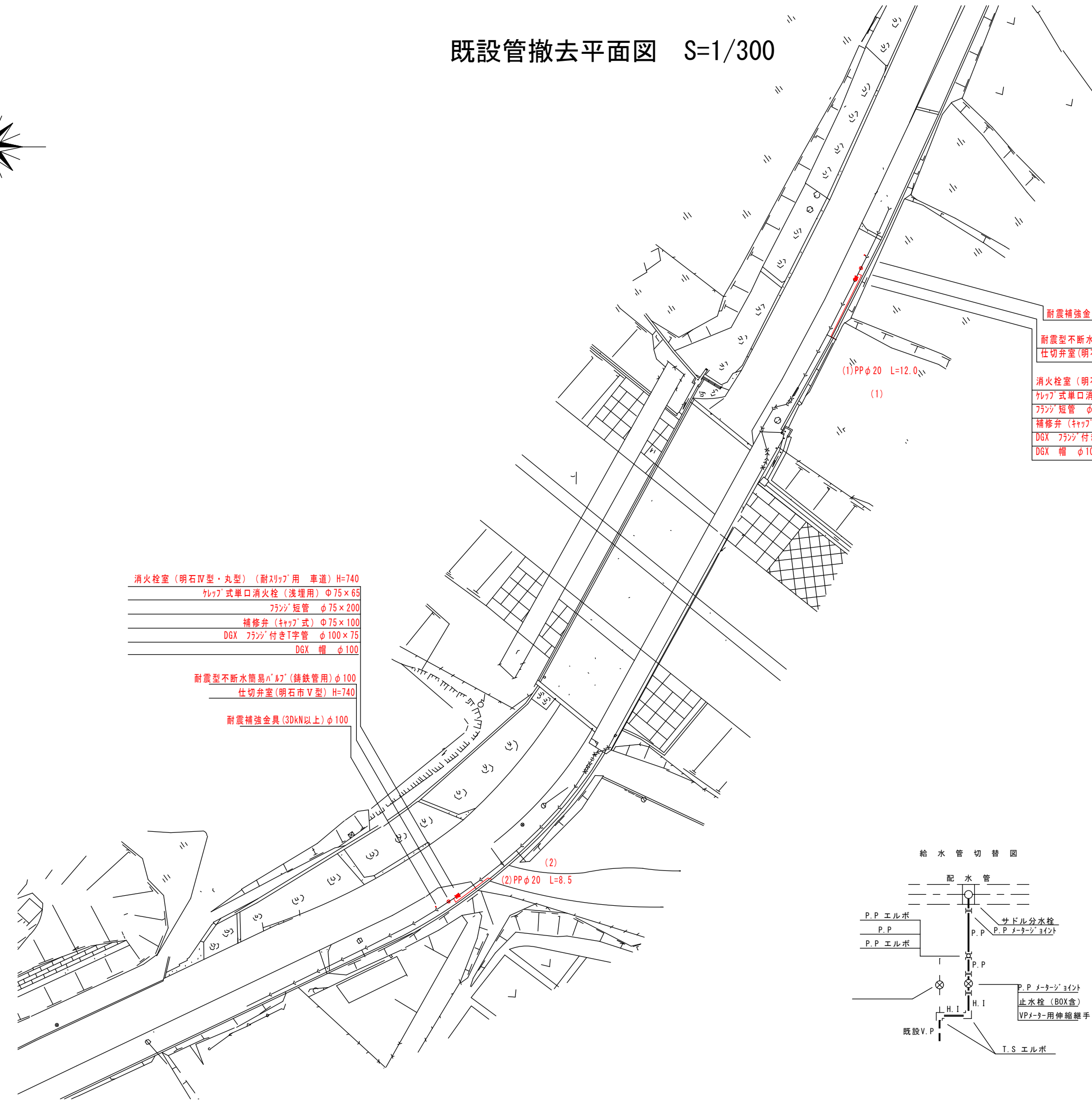
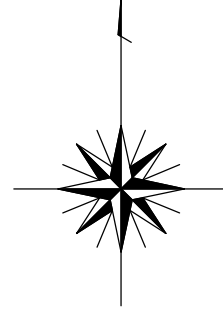
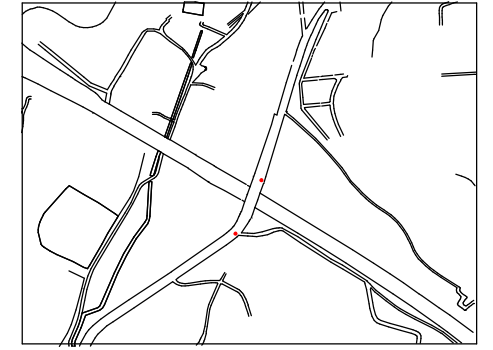
位置図 S = 1/ 5000



図番	2 / 5	着工番号	令和5年度
工事名	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事		
図種	配水管布設平面図		
場所	明石市大久保町大久保地内		
縮尺	図示		
制作日			
設計者	製図者		

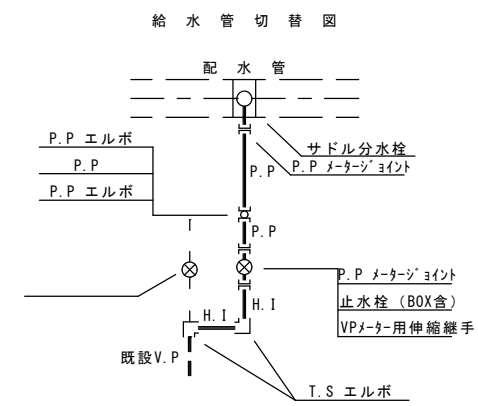
既設管撤去平面図 S=1/300

位置図 S = 1/5000



- 消火栓室 (明石Ⅳ型・丸型) (耐スリッパ用 車道) H=740
- スリッパ式単口消火栓 (浅埋用) φ75×65
- フランジ短管 φ75×200
- 補修弁 (キャップ式) φ75×100
- DGX フランジ付きT字管 φ100×75
- DGX 帽 φ100
- 耐震型不断水簡易ハルツ (鑄鉄管用) φ100
- 仕切弁室 (明石市V型) H=740
- 耐震補強金具 (30kN以上) φ100

- 耐震補強金具 (30kN以上) φ100
- 耐震型不断水簡易ハルツ (鑄鉄管用) φ100
- 仕切弁室 (明石市V型) H=740
- 消火栓室 (明石Ⅳ型・丸型) (耐スリッパ用 車道) H=740
- スリッパ式単口消火栓 (浅埋用) φ75×65
- フランジ短管 φ75×200
- 補修弁 (キャップ式) φ75×100
- DGX フランジ付きT字管 φ100×75
- DGX 帽 φ100

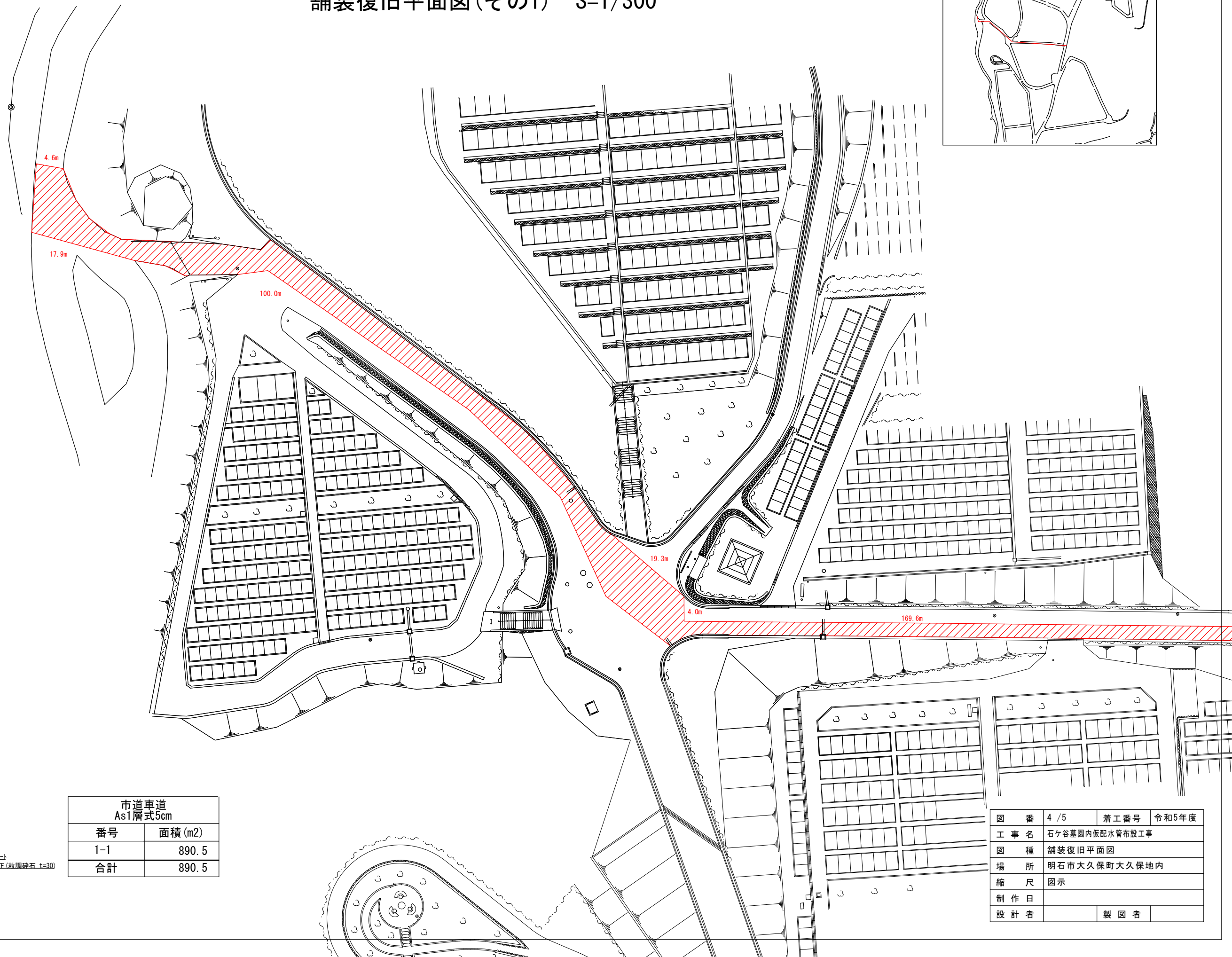
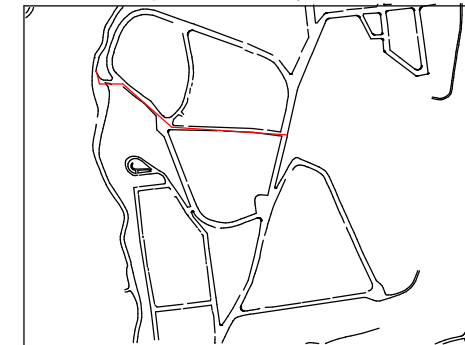


図番	3 / 5	着工番号	令和5年度
工事名	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事		
図種	既設管撤去平面図		
場所	明石市大久保町大久保地内		
縮尺	図示		
制作日			
設計者	製図者		



舗装復旧平面図(その1) S=1/300

位置図 S = 1/ 5000



市道車道
As1層式5cm

市道車道 As1層式5cm	
番号	面積 (m2)
1-1	890.5
合計	890.5

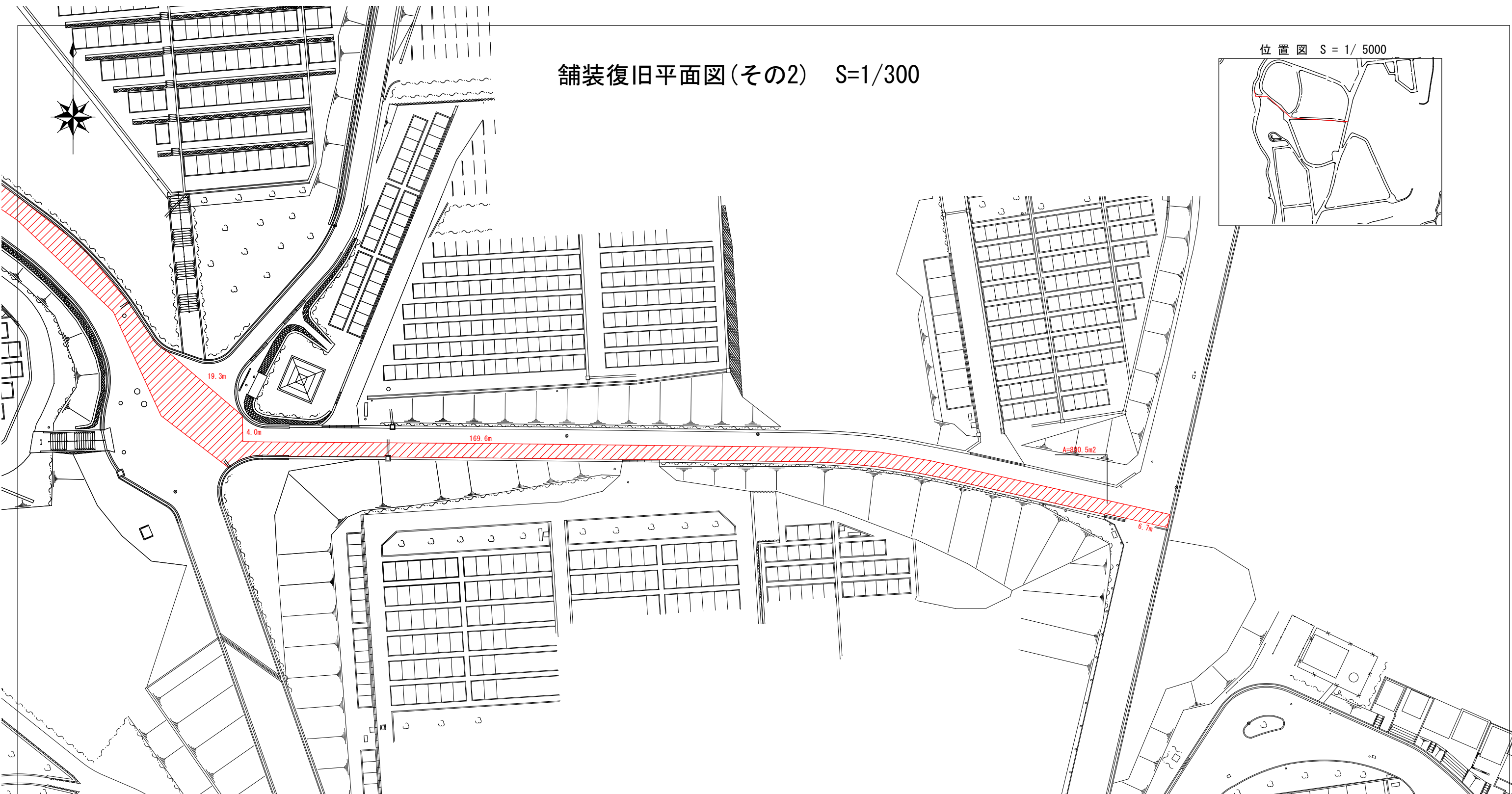
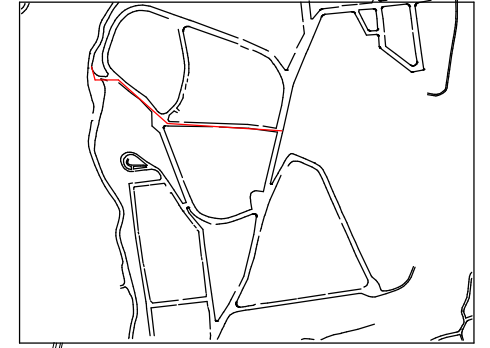
再生密粒度7ｽﾌﾟﾙﾄ t=50
粒調砕石 t=100
(配管時施工)

プライムコート
不陸修正(粒調砕石 t=30)

図番	4 / 5	着工番号	令和5年度
工事名	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事		
図種	舗装復旧平面図		
場所	明石市大久保町大久保地内		
縮尺	図示		
制作日			
設計者	製図者		

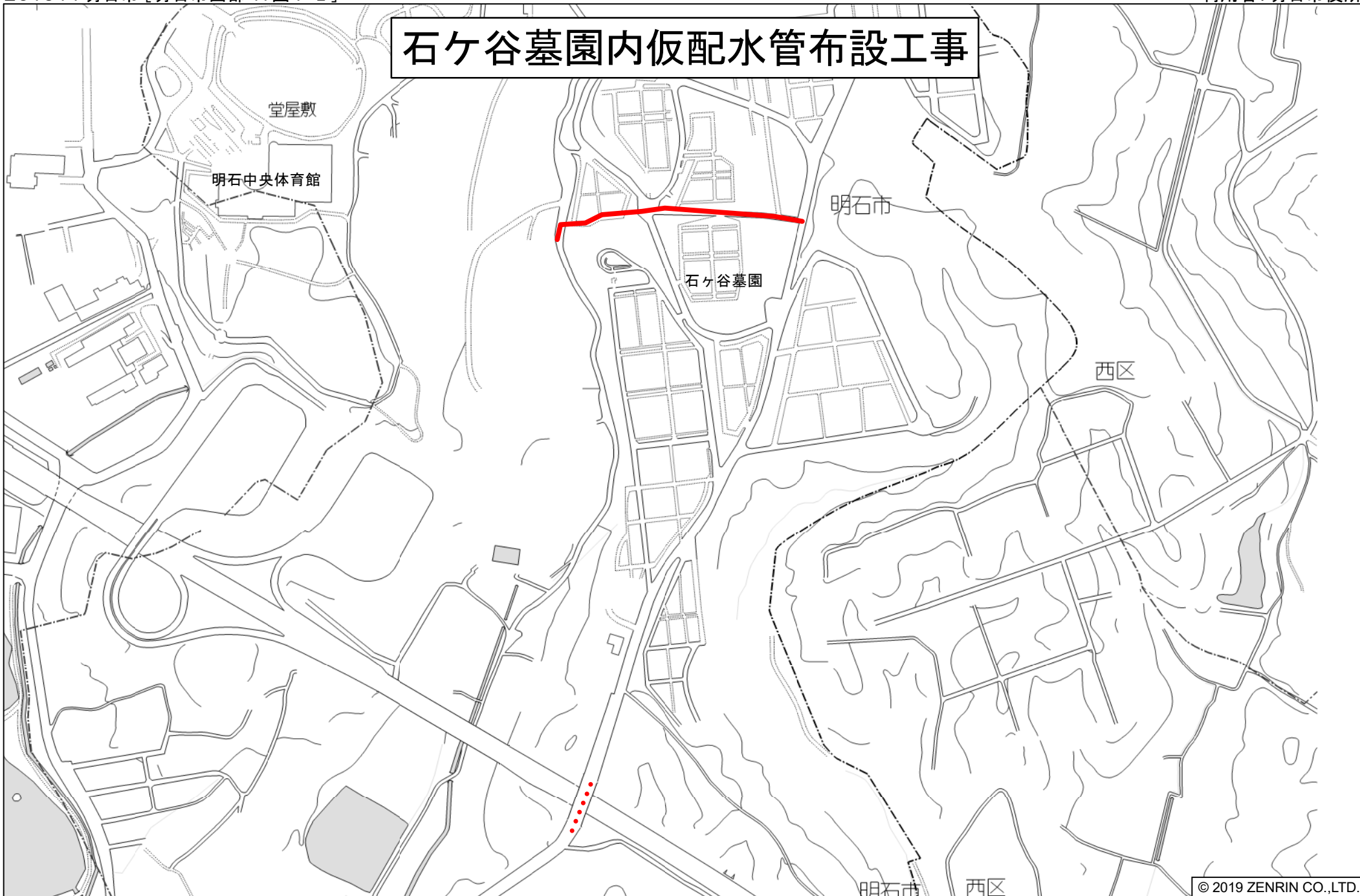
舗装復旧平面図(その2) S=1/300

位置図 S = 1/ 5000



図番	5 / 5	着工番号	令和5年度
工事名	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事		
図種	舗装復旧平面図		
場所	明石市大久保町大久保地内		
縮尺	図示		
制作日			
設計者		製図者	

石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事



見 積 参 考 図 書									
年 度	令和5年度	技術管理者	課長	係長	係長	精算者	設計者	受託工事費	
工 事 番 号	05-7601							設 計 年 月 日	令和5年 4月 3日
着 工 番 号			精 算 年 月 日	令和5年 4月 3日					
施 工 理 由									
施 工 箇 所	明石市大久保町松陰地内					施 工 方 法 及 び 工 事 期 限		<input checked="" type="radio"/> 請 負 単 価 契 約 令和5年9月30日まで	
工 事 名 称	石ヶ谷墓園内仮配水管布設工事					支 払 い 方 法		前 払 金	あり (40%以内)
								中 間 前 払 金	あり (20%以内)
								部 分 払	あり (1回以内)
工 事 概 要	仮配水管布設工計 L=303.6m								
	仮配水管布設工 φ100 L=303.6m								
	既設管撤去工 1式								
	舗装復旧工 1式								
当初設計金額	円	消費税相当額	円	当初請負金額	円	消費税相当額	円		
変更設計金額	円	消費税相当額	円	変更請負金額	円	消費税相当額	円		
増 減	円	増 減	円	増 減	円	増 減	円		

総括情報表

単価適用年月日	0-05.04.01(0)		
工種区分 施工地域区分 工事価格丸め	今 回 01 開削工事及び小口推進工事 23 一般交通影響あり(2) 01 万円丸め	前 回	

工 事 費 内 訳 書

頁0-0002/0103

	費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
本工事費						
管路						
φ100管路						
φ100管布設工						
材料						
手間		1	式			工種 第0001号明細表
φ100管布設土工						
土工		1	式			工種 第0002号明細表
付帯工						
		(453.3)	m			工種 第0003号明細表

工 事 費 内 訳 書

頁0-0003/0103

費目・工種・種別・細目	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
既設管撤去工						
既設管撤去材料						
手間	1		式			工種 第0004号明細表
撤去土工	1		式			工種 第0005号明細表
付帯工	1		式			工種 第0006号明細表
舗装復旧工						
交通誘導員設置	1		式			工種 第0007号明細表
	1		式			工種 第0009号明細表
直接工事費計						
共通仮設費計						

工 事 費 内 訳 書

頁0-0004/0103

	費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
準備費						
試掘調査			式			
技術管理費		1	式			工種 第0012号明細表
通水試験費			式			
共通仮設費率分		1	式			工種 第0013号明細表
純工事費計			式			
現場管理費			式			
工事原価計						
一般管理費等			式			

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
PE EFフランジ (RF形 7.5k) φ75	1	個			K 管材費
PE EF片受ベント (90°) φ75	1	個			K 管材費
PE EF受口付直管 φ100	60	本			K 管材費
PE EF片受レギュサ φ100×75	1	個			K 管材費
PE EF両受ベント (45°) φ100	2	個			K 管材費
PE EF片受フランジ短管 φ100	1	個			K 管材費
PE EFソケット φ100	2	個			K 管材費
PE挿し口付 ソフトシル仕切弁 φ100	2	個			K 管材費
ソフトシル仕切弁付割T字管 φ100×100 密着コア(SUS製) 含む	1	基			K 管材費

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
フランジ 接合補強具(LSP形) φ100 7.5K LSPパッキン ボルト・ナット(SUS304製)緩み防止仕様	1	組			K 管材費
仕切弁室(明石V型)(H=340) 鉄蓋含む	1	組			施工 第0-0023号内訳表
仕切弁室(明石V型)(H=1040) 鉄蓋含む	2	組			施工 第0-0024号内訳表
空気弁付消火栓(浅埋形) φ75×65 JWWA B 103, 地下式, 単口式, 0.75MPa FCD 内外面球形粉体塗装	2	基			K 管材費
カップ式単口消火栓(浅埋形) φ75×65 JWWA B 103, 地下式, 単口式, 0.75MPa FCD 内外面球形粉体塗装	1	基			K 管材費
フランジ短管 φ75×300 0.75MPa 内面球形粉体塗装	2	個			K 管材費
PE フランジ付チズRF形(7.5k) φ100×75	3	個			K 管材費
フランジ 接合補強具(LSP形) φ75 7.5K LSPパッキン ボルト・ナット(SUS304製)緩み防止仕様	5	組			K 管材費
空気弁ボックス(円形3号)(H=340) 鉄蓋及び無収縮モルタル含む	1	組			施工 第0-0025号内訳表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
ポリエチレン管(融着接合)据付 呼び径 75mm	0.7	m			施工 第0-0028号内訳表
ポリエチレン管(融着接合)継手工 呼び径 75mm, 1口継手	2	箇所			施工 第0-0029号内訳表
ポリエチレン管(融着接合)据付 呼び径 100mm	301.2	m			施工 第0-0030号内訳表
ポリエチレン管(新設管)切断工 呼び径100mm	6	口			施工 第0-0031号内訳表
ポリエチレン管(融着接合)継手工 呼び径 100mm, 2口継手	7	箇所			施工 第0-0032号内訳表
ポリエチレン管(融着接合)継手工 呼び径 100mm, 1口継手	61	箇所			施工 第0-0033号内訳表
フランジ継手 接合(呼び径 100mm) JWWA 7.5K	1	口			施工 第0-0034号内訳表
鋳鉄製仕切弁(機械力)設置 縦型仕切弁 呼び径 100mm以下	2	基			施工 第0-0035号内訳表
不断水連絡工(φ100mm×φ100mm)	1	箇所			施工 第0-0037号内訳表

工種明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
密着コア取付工 φ100	1	個			
円形1号ボックス設置工(H=340) 鉄蓋設置含む	1	箇所			
円形1号ボックス設置工(H=1040) 鉄蓋設置含む	2	箇所			
空気弁 設置 呼び径 75mm 機械施工	2	基			施工 第0-0046号内訳表
消火栓(地下式 単口)設置工 機械施工 フランジ 接合1口含む	1	箇所			施工 第0-0047号内訳表
フランジ継手 接合(呼び径 75(80)mm) JWWA 7.5K	4	口			施工 第0-0048号内訳表
円形3号ボックス設置工(H=340) 鉄蓋設置含む	2	箇所			
円形3号ボックス設置工(H=1040) 鉄蓋設置含む	1	箇所			
合 計	1	式			

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
舗装版切断(アスファルト舗装版) As舗装版厚→15cm以下	580	m			施工 第0-0001号内訳表
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え 10cm以下	175	m ²			施工 第0-0002号内訳表
掘削積込工	150	m ³			施工 第0-0056号内訳表
掘削積込工(補助的作業なし)	1.0	m ³			施工 第0-0004号内訳表
掘削(人力) 土砂 現場制約あり	0.4	m ³			施工 第0-0057号内訳表
残塊処分工(アスファルト) 〔株NIPPO神戸合材センター〕 運搬距離 L=12km	9	m ³			施工 第0-0016号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔田口建材株〕 運搬距離 L=1.8km	150	m ³			施工 第0-0020号内訳表
アスファルト舗装工(人力) 密粒度アスコン[再](13) t=50mm	175	m ²			施工 第0-0013号内訳表
路盤工(粒調碎石) 上層路盤 施工幅:1.8m 未満 仕上り厚10cm	175	m ²			施工 第0-0011号内訳表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
クランプ式単口消火栓(浅埋形) φ75×65 JWWA B 103, 地下式, 単口式, 0.75MPa FCD 内外面エポキシ粉体塗装	2	基			K 管材費
フランジ短管 φ75×200 0.75MPa 内面エポキシ粉体塗装	2	個			K 管材費
補修弁(キャップ式) φ75×100 JWWA B 126, 0.75MPa FCD 内外面エポキシ粉体塗装	2	基			K 管材費
DGX フランジ付きT字管 φ100×75 ロックリング含 内面エポキシ粉体塗装	2	個			K 管材費
フランジ接合補強具(LSP形) φ75 7.5K LSPパッキン ホルト・ナット(SUS304製)緩み防止仕様	6	組			K 管材費
消火栓室(明石IV型・丸型)(H=740) 鉄蓋及び無収縮モルタル含む 耐スリップ用 車道	2	組			施工 第0-0058号内訳表
耐震型不断水簡易バルブ(鑄鉄管) φ100	2	基			K 管材費
仕切弁室(明石V型)(H=740) 鉄蓋含む	2	組			施工 第0-0059号内訳表
DGX 帽 φ100 内面エポキシ粉体塗装	2	個			K 管材費

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
GX形G-Linkネット φ100 切管異形管受用	4	組			
A・K形既設管用耐震金具(3DkN以上) φ100	2	組			
表示帯	1.0	m			
ポリエチレンスリーブ φ100 固定材料含む	1.0	m			施工 第0-0060号内訳表
管明示テープ(幅50mm 1巻 20m) 年号入り	1	巻			
HIVP管 φ40 JIS K 6742	4.0	m			K 管材費
HI エルボ φ40 JIS K 6743	6	個			K 管材費
止水栓 φ40	2	個			K 管材費
止水栓BOX 明石型 H=600	2	個			

手間

工種明細表

工種 第0005号明細表

頁0-0016/0103

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
鋳鉄管吊込み据付(機械力) 呼び径 100mm	1.0	m			施工 第0-0062号内訳表
メカニカル継手 接合(呼び径 100mm) 継手:K形 特殊押輪補正あり	2	口			施工 第0-0063号内訳表
消火栓(地下式 単口)設置工 機械施工 フランジ 接合1口含む	2	箇所			施工 第0-0047号内訳表
フランジ継手 接合(呼び径 75(80)mm) JWWA 7.5K	4	口			施工 第0-0048号内訳表
円形3号ボックス設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	2	箇所			
耐震型不断水バルブ設置工(鋳鉄管用) φ100	2	箇所			
円形1号ボックス設置工(H=740) 鉄蓋設置含む	2	箇所			
GX継手接合(呼び径 100mm) G-Linkの接合	2	口			施工 第0-0068号内訳表
GX継手接合(呼び径 100mm) 異形管	2	口			施工 第0-0069号内訳表

手間

工種明細表

工種 第0005号明細表

頁0-0017/0103

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
管明示シート工					
	1.0	m			施工 第0-0070号内訳表
ポリエチレンスリーブ被覆(呼び径 100mm)					
	1.0	m			施工 第0-0071号内訳表
管明示テープ工 φ100					
	1.0	m			施工 第0-0072号内訳表
硬質塩化ビニル管 据付 呼び径 40mm					
	4.0	m			施工 第0-0073号内訳表
硬質塩化ビニル管 TS継手工(呼び径 40mm)					
	18	口			施工 第0-0074号内訳表
止水栓 取付(呼び径40mm) 接合及び止水栓筐 VP用					
	2	箇所			施工 第0-0075号内訳表
給水管切替工(φ75~150×φ20)					
	2	箇所			施工 第0-0076号内訳表
ポリエチレン管 据付 呼び径 20mm					
	20.5	m			施工 第0-0079号内訳表
鋳鉄管吊込み撤去(機械力) 呼び径 100mm					
	3.0	m			施工 第0-0083号内訳表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
掘削積込工					
	13	m3			施工 第0-0056号内訳表
掘削積込工(補助的作業なし)					
	4	m3			施工 第0-0004号内訳表
掘削(人力) 土砂 現場制約あり					
	2	m3			施工 第0-0057号内訳表
残塊処分工(土砂) 〔田口建材(株) 運搬距離 L=1.8km					
	21	m3			施工 第0-0020号内訳表
埋戻工(埋戻し材→再生切込碎石)					
	14	m3			施工 第0-0010号内訳表
埋戻工(埋戻し材→スクリーングス)					
	6	m3			施工 第0-0007号内訳表
合計	1	式			

工種明細表

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
舗装版切断(アスファルト舗装版) As舗装版厚→15cm以下	320	m			施工 第0-0001号内訳表
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え 10cm以下	891	m2			施工 第0-0002号内訳表
残塊処分工(アスファルト) 〔株NIPPO神戸合材センター〕 運搬距離 L=12km	45	m3			施工 第0-0016号内訳表
不陸整正工(粒調碎石) 施工幅：1.8m 以上、補足材厚3cm	891	m2			施工 第0-0086号内訳表
表層(車道・路肩部) t = 50mm 密粒度アスコン[再](13)	891	m2			施工 第0-0088号内訳表
合 計	1	式			

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装版切断(アスファルト舗装版) As舗装版厚→15cm以下	6.0	m			施工 第0-0001号内訳表
舗装版取壊し積込工 舗装厚⇒0cm越え 10cm以下	2.0	m2			施工 第0-0002号内訳表
掘削積込工(補助的作業なし)	1.9	m3			施工 第0-0004号内訳表
掘削(人力) 土砂	1.0	m3			施工 第0-0006号内訳表
埋戻工 (埋戻し材→スクリーニングス)	1.0	m3			施工 第0-0007号内訳表
埋戻工 (埋戻し材→再生切込砕石)	1.6	m3			施工 第0-0010号内訳表
路盤工(粒調砕石) 上層路盤 施工幅: 1.8m 未満 仕上り厚10cm	2.0	m2			施工 第0-0011号内訳表
アスファルト舗装工 (人力) 密粒度アスコン[再](13) t=50mm	2.0	m2			施工 第0-0013号内訳表
残塊処分工(アスファルト) 〔株NIPPO神戸合材センター〕 運搬距離 L=12km	0.1	m3			施工 第0-0016号内訳表

舗装版切断(アスファルト舗装版)
[規格 1] As舗装版厚->15cm以下

[規格 2]

積算単価算出表

施工 第0-0001号内訳表

頁0-0030/0103
m 当り

標準単価	代表機材規格		構成比	基準単価	積算規格	単 価	補 正 構成比	備 考
K1		コンクリートカッタ 切削深20cm級 [ハキューム式・湿式]			コンクリートカッタ [ハキューム式・湿式] 20cm級			
K								
R1		特殊作業員			特殊作業員			
R2		土木一般世話役			土木一般世話役			
R3		普通作業員			普通作業員			
R								
Z1		コンクリートカッタ(プレート) 径22インチ			舗道版切断 カッタープレート 径22インチ			
Z2		ガソリン レギュラー スタンド			レギュラーガソリン			
Z								
					計			
積算単価 =								
A	舗装版種別	=1		アスファルト舗装版				
B	アスファルト舗装版厚	=1		15cm以下				

掘削(人力)
[規格1] 土砂

[規格2]

積算単価算出表

施工 第0-0006号内訳表

頁0-0033/0103
1
m3 当り

標準単価	代表機材規格		構成比	基準単価	積算規格	単価	補正 構成比	備考
K								
R1		普通作業員			普通作業員			
R								
Z								
					計			
積算単価 =								
A	土質	=1	土砂					
B	施工方法	=6	現場制約あり					

施工単価表

施工 第0-0007号内訳表

頁0-0034/0103

埋戻工（埋戻し材→スクリーングス）

[規格1] 名称・規格	[規格2] 数量	単位	[摘要] 単価	金額	備考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
スクリーングス (0～2.5mm)		m3			
バックホウ運転		時間			
タンク運転（賃料）		日			
合 計	100	m3			
単 位 当 り	1	m3			
A 埋戻し材の種類		=6	スクリーングス		
B バックホウ規格		=3	バックホウ 山積0.28m3(平積0.2m3)		

施工単価表

施工 第0-0010号内訳表

頁0-0035/0103

埋戻工（埋戻し材→再生切込砕石）

[規格1]

[規格2]

[摘要]

100

m3

当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
再生切込砕石 (0~30mm・0~40mm)		m3			
バックホ運転		時間			
クワ運転 (賃料)		日			
合 計	100	m3			
単 位 当 り	1	m3			
A 埋戻し材の種類 B バックホ規格		=5 =3	再生切込砕石 バックホ 山積0.28m3 (平積0.2m3)		

施工単価表

施工 第0-0013号内訳表

頁0-0037/0103

アスファルト舗装工（人力）

[規格1] 密粒度アスコン[再](13) t=5.0mm

[規格2]

[摘要]

100

m2

当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			12
特殊作業員		人			12
普通作業員		人			12
再生密粒度アスコン TOP13		t			
振動ローリ運転		日			12
振動コンパクタ運転		日			12
諸雑費		%			#02
合 計	100	m2			
単 位 当 り	1	m2			
A アスファルト混合物の種類		=10	密粒度アスコン[再](13)		
B 仕上り厚(mm)		=50	仕上り厚(mm)		
C 瀝青材の種類		=3	瀝青材なし		
E 歩車道区分		=1	車道及び路肩		
F 昼夜間区分		=1	昼間工事		

施工単価表

施工 第0-0027号内訳表

頁0-0048/0103

空気弁ボックス(円形3号)(H=1040)

[規格1]鉄蓋及び無収縮モルタル含む

[規格2]

[摘要]

1 組 当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
空気弁鉄蓋(円形3号) 明石市型、耐スリップ用、車道用	1	個			
ボルト・ナットM16×150 3セット	1	個			
無収縮モルタル(25kg)	1	個			
円形3号BOX 上部壁H=200	1	個			
円形3号BOX 中部壁H=200	1	個			
円形3号BOX 下部壁H=500	1	個			
円形3号BOX 底版H=40	1	個			
単 位 当 り	1	組			

施工単価表

施工 第0-0033号内訳表

頁0-0054/0103

ポリエチレン管(融着接合)継手工

[規格1]呼び径 100mm, 1口継手

[規格2]

[摘要]

1

箇所 当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
配管工		人			1
普通作業員		人			1
諸雑費		%			#01
単 位 当 り	1	箇所			
A 呼び径 B 1箇所あたりの口数		=7 =2	呼び径 100mm 1口継手		

施工単価表

施工 第0-0039号内訳表

頁0-0058/0103

鉄蓋設置工(円形1号 内径250)

[規格1] 名称・規格	[規格2]	[摘要]	1 個 当り		
名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
単位当り	1	個			
A 作業区分 B 鉄蓋種類		=1 =1	設置 円形1号 内径250		

施工単価表

施工 第0-0043号内訳表

頁0-0061/0103

レジンコンクリート製ボックス設置（円形）

[規格1]円形1号 内径250 上部壁 高さ 150mm [規格2]

[摘要]

1 個 当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
単 位 当 り	1	個			
A 作業区分		=1	設置		
B 規格		=1	1号 内径250		
C 調整箇所		=2	上部壁		
D 高さ		=3	高さ 150mm		

施工単価表

施工 第0-0048号内訳表

頁0-0066/0103

フランジ継手 接合(呼び径 75(80)mm)

[規格1] JWWA 7.5K

[規格2]

[摘要]

1 口 当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
配管工		人			1
普通作業員		人			1
諸雑費		%			#01
単 位 当 り	1	口			
A 作業区分 B 規格 C 呼び径		=1 =1 =2	接合 JWWA 7.5K 呼び径 75(80)mm		

施工単価表

施工 第0-0051号内訳表

頁0-0068/0103

レジンコンクリート製ボックス設置 (円形)

[規格1]円形3号 内径500 上部壁 高さ 200mm [規格2]

[摘要]

1 個 当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
単位当り	1	個			
A 作業区分		=1	設置		
B 規格		=3	3号 内径500		
C 調整箇所		=2	上部壁		
D 高さ		=4	高さ 200mm		

施工単価表

施工 第0-0054号内訳表

頁0-0070/0103

レジンコンクリート製ボックス設置（円形）

[規格1]円形3号 内径500 中部壁 高さ 200mm [規格2]

[摘要]

1 個 当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
普通作業員		人			
単位当り	1	個			
A 作業区分		=1	設置		
B 規格		=3	3号 内径500		
C 調整箇所		=3	中部壁		
D 高さ		=4	高さ 200mm		

掘削 (人力)
[規格 1] 土砂 現場制約あり

[規格 2]

積算単価算出表

施工 第0-0057号内訳表

頁0-0073/0103
1
m3 当り

標準単価	代表機材規格		構成比	基準単価	積算規格	単 価	補 正 構成比	備 考
K								
R1		普通作業員			普通作業員			
R								
Z								
					計			
積算単価 =								
A	土質	=1	土砂					
B	施工方法	=6	現場制約あり					

施工単価表

施工 第0-0058号内訳表

頁0-0074/0103

消火栓室(明石IV型・丸型)(H=740)

[規格1]鉄蓋及び無収縮モルタル含む

[規格2]耐スリップ用 車道

[摘要]

1 組 当り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消火栓鉄蓋(円形3号) 明石市型、耐スリップ用、車道用	1	個			
ボルト・ナットM16×150 3セット	1	個			
無収縮モルタル(25kg)	1	個			
円形3号BOX 上部壁H=200	1	個			
円形3号BOX 中部壁H=100	1	個			
円形3号BOX 下部壁H=300	1	個			
円形3号BOX 底版H=40	1	個			
単 位 当 り	1	組			

施工単価表

施工 第0-0061号内訳表

頁0-0077/0103

給水管切替φ20（材料）

[規格1]サドル分水栓含まない

[規格2]

[摘要]

1

箇所
当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備	考
PPマーサジョイント φ20	2	個				K 管材費
VPマーサ用伸縮継手 φ20	1	個				K 管材費
止水栓 φ20	1	個				K 管材費
止水栓BOX 明石型 H=400	1	個				
PPエルボ φ20	2	個				K 管材費
HI エルボ φ20 JIS K 6743	2	個				K 管材費
PP管 φ20 二層管,1種(軟質)	0.5	m				K 管材費
HIVP管 φ20 JIS K 6742	0.5	m				K 管材費
単 位 当 り	1	箇所				

施工単価表

施工 第0-0063号内訳表

頁0-0079/0103

メニカル継手 接合(呼び径 100mm)

[規格1]継手：K形 特殊押輪補正あり

[規格2]

[摘要]

1

口 当り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工		人			(接合) 12
普通作業員		人			(接合) 12
諸雑費		%			#01 (接合) 2
特殊押輪使用による割増		%			#02 (接合)
単 位 当 り	1	口			
A 作業区分		=1	接合		
B 継手の種類		=5	K形		
C 呼び径		=2	呼び径 100mm		
E 特殊押輪使用による補正の有無		=2	特殊押輪補正あり		
F ★★割増補正(%)		=	★★割増補正(%)		
G 現場状況		=2	普通 (係数 1.2)		

施工単価表

施工 第0-0071号内訳表

頁0-0085/0103

ポリエチレンスリーブ被覆(呼び径 100mm)

[規格1]

[規格2]

[摘要]

100

m

当り

名称・規格	数量	単位	単価	金額	備考
配管工		人			
普通作業員		人			
合計	100	m			
単位当り	1	m			
A 呼び径		=2	呼び径 100mm		

標準単価	代表機材規格	構成比	基準単価	積算規格	単 価	補 正 構成比	備 考
K1	トラック ベーストラック2t積 2.0t吊 [クレーン装置付]			トラック [クレーン装置付] 2t級 2.0t吊			
K							
R1	運転手(特殊)			運転手(特殊)			
R2	普通作業員			普通作業員			
R							
Z1	軽油 1.2号 ハトロール給油			軽油			
Z							
				計			
積算単価 =							
A	トラック機種 =1		クレーン装置付2t積2t吊				
B	片道運搬距離(km) =2		5.0km以下				
C	1回当り平均積載質量(t) =1		0.1t以下				

表層(車道・路肩部)
[規格1] t = 50mm

[規格2] 密粒度アスコン[再](13)

積算単価算出表

施工 第0-0088号内訳表

1
頁0-0101/0103
m2 当り

標準単価	代表機材規格	構成比	基準単価	積算規格	単価	補正 構成比	備考
K1	アスファルトフィニッシャ 舗装幅2.3~6.0m [ホイール型] 排出ガス対策型含			アスファルトフィニッシャ(排出ガス対策型含) ホイール型 舗装幅2.3~6.0m			
K2	タイヤローラ 質量8~20t 排出ガス対策型含			タイヤローラ(排出ガス対策型含) 8~20t			
K3	ロッドローラ 質量10~12t [マカダム] 排出ガス対策型含			ロッドローラ(排出ガス対策型含) マカダム 10~12t			
K							
R1	普通作業員			普通作業員			
R2	特殊作業員			特殊作業員			
R3	運転手(特殊)			運転手(特殊)			
R4	土木一般世話役			土木一般世話役			
R							
Z1	密粒度アスコン TOP20 t=50mm			再生密粒度アスコン TOP13			
Z2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用			アスファルト乳剤 PK-3(プライムコート用)			
Z3	軽油 1.2号 バトロール給油			軽油			
Z							
				計			
積算単価 =							

表層(車道・路肩部)
[規格1] t = 50mm

[規格2] 密粒度アスコン[再](13)

積算単価算出表

施工 第0-0088号内訳表

頁0-0102/0103
m2 当り

標準単価	代表機材規格			構成比	基準単価	積算規格	単 価	補 正 構成比	備 考
	A	平均幅員	=4	3.0m超					
	B	1層当り平均仕上り厚(mm)	=50	1層当り平均仕上り厚(mm)					
	C	材料	=8	密粒度アスコン[再](13)					
	D	夜間割増の有無	=1	無し					
	E	瀝青材料種類	=2	プライムコート PK-3					

